

# AT-WDM01

---

## ユーザーマニュアル

## ご注意

本書の中に含まれる情報は、当社(アライドテレシス株式会社)の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。当社は、予告無く本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。

Copyright ©2001 アライドテレシス株式会社

## 商標について

CentreCOM は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。  
MS-DOS、Windows、Windows NTは、米国Microsoftの米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
本マニュアルの中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

# 安全のために



必ずお守りください



## 警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

### 分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

### 雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

### 異物はいれない 水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

### 通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

### 湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

### 設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを抜く

### ケーブルを傷つけない

火災や感電の原因となります。  
ケーブルやコネクタの取扱上の注意：  
・加工しない、傷つけない。  
・重いものを載せない。  
・熱器具に近づけない、加熱しない。



傷つけない

# ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気が多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 80% 以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



## 静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



## 取り扱いにはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。



## お手入れについて

### 清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



### 機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤  
使用



強く絞る

### お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん  
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー  
類不可

# このマニュアルについて

このたびは、AT-WDM01 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品はCentreCOM WD1004(以下WD1004)の設定や診断を行うためのマネジメントモジュールです。

前面パネルにRS-232ポートと10BASE-Tポートをそれぞれ一つずつ装備しており、内蔵ソフトウェアに簡単にアクセスすることができます。また、SNMP(簡易ネットワーク管理プロトコル)による管理が可能なSNMPエージェントにより、SNMPマネージャーから各種情報を監視・設定することができます。

本書では、ご使用いただくうえでの注意事項や設置の方法、ソフトウェアの設定方法、付録で障害が発生したときの対処方法や製品仕様について説明しています。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

マニュアルバージョン

2001年 4月      Rev.A      初版

# このマニュアルについて

## 表記規則

本書の表記規則を以下に示します。

### アイコン

アイコン	意味
 ヒント	重要な情報や指示を示します。
 注意	人体やシステムに危害や損害がおよぶ恐れがあることを示します。
 参照	参照ページ・参照項目を示します。

## マニュアルの構成

本書の構成は、以下のとおりです。

### 1 はじめに

この章では、本製品の梱包内容、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

### 2 基本操作

この章では、本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェアの設定方法、メニューの操作について説明しています。

### 3 マネージメントメニュー

この章では、ソフトウェアの管理機能と設定内容についてメニュー項目ごとに説明しています。

### 4 付録

この章では、ソフトウェアのバージョンアップ手順、トラブルシューティング、オプションの拡張モジュールの仕様と装着手順、製品仕様について説明しています。

### 5 保証とユーザーサポート

この章では、本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書のご記入方法について説明します。

# 目次

ご注意 .....	ii
商標について .....	ii
電波障害自主規制について .....	ii
安全のために .....	iii
このマニュアルについて .....	v
表記規則 .....	vi
マニュアルの構成 .....	vii
<b>1 はじめに</b> .....	<b>1-1</b>
1 梱包内容 .....	1-2
2 各部の名称と働き .....	1-3
前面パネル .....	1-3
3 前面パネル .....	1-4
LED .....	1-4
RESET ボタン .....	1-4
4 設置と接続 .....	1-5
WD1004 への取り付け .....	1-5
ターミナルポートの接続 .....	1-7
VT-Kit を使用する場合 .....	1-7
10BASE-T ポートの接続 .....	1-8
<b>2 基本操作</b> .....	<b>2-1</b>
1 ログイン方法 .....	2-2
ローカルセッション .....	2-2
Telnet セッション .....	2-2
2 ターミナルソフトの設定 .....	2-3
VTTERM の設定手順 .....	2-3
「ターミナル」の設定手順 .....	2-4
「ハイパーターミナル」の設定手順 .....	2-6
3 Telnet でログインする .....	2-9
「TELNET」の設定手順 .....	2-9
CentreNET PC/TCP の設定手順 .....	2-11
4 メニューの操作方法 .....	2-13
<b>3 マネージメントメニュー</b> .....	<b>3-1</b>
1 メニュー項目 .....	3-2
2 ポート設定 .....	3-3
ポートステータスの表示 .....	3-3
ポートコンフィグレーション .....	3-4

3	システム管理 .....	3-6
	ソフトウェアのダウンロード(ネットワーク上のシステム).....	3-7
	ソフトウェアのダウンロード(ネットワーク上の全システム).....	3-9
	ソフトウェアのアップグレード(XModem).....	3-11
	リモートシステムへの接続 .....	3-13
	Ping テスト .....	3-14
	アクティブモニター .....	3-15
	システム診断 .....	3-16
	システムリセット .....	3-17
4	システム設定 .....	3-18
	Omega Options メニュー .....	3-20
	IP パラメーター .....	3-24
	ターミナル設定 .....	3-27
4	付 録 .....	4-1
<hr/>		
1	バージョンアップ手順 .....	4-2
2	デフォルト設定.....	4-8
3	トラブルシューティング .....	4-10
	セルフテストについて .....	4-10
	トラブルと思ったら .....	4-11
4	仕様 .....	4-13
	コネクタ / ケーブル仕様 .....	4-13
	本製品の仕様 .....	4-15
5	保証とユーザーサポート .....	5-1
<hr/>		
1	保証とユーザーサポート .....	5-2
	保証 .....	5-2
	ユーザーサポート .....	5-2
2	調査依頼書のご記入にあたって .....	5-3
	使用しているハードウェアについて .....	5-3
	お問い合わせ内容について .....	5-3
	ネットワーク構成について .....	5-3
	調査依頼書 ( AT-WDM01 ).....	5-5



# 1

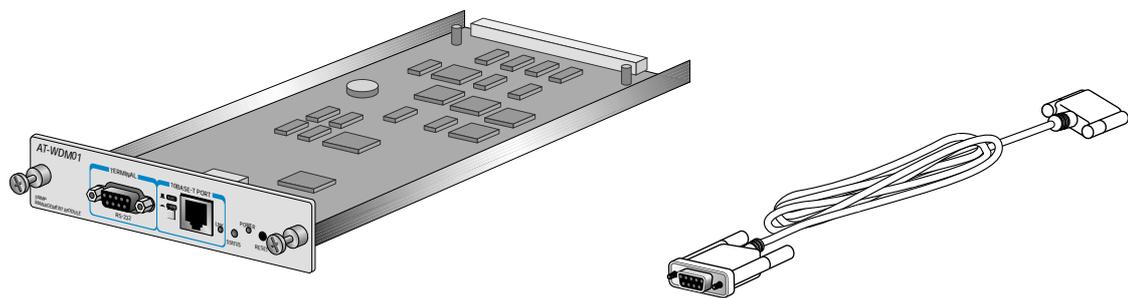
## はじめに

---

この章では、本製品の梱包内容、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

# 1 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。



AT-WDM01 1個

RS-232ケーブル(2m) 1個



ユーザーマニュアル(本書) 1冊  
製品保証書 1枚  
お客様インフォメーション登録カード  
シリアル番号シール 3枚

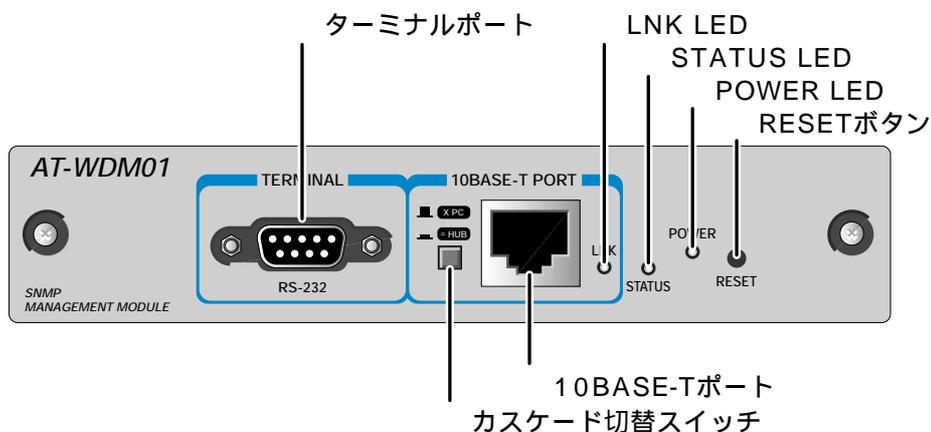
本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

1

はじめに

## 2 各部の名称と働き

### 前面パネル



#### ターミナル(RS-232)ポート

RS-232ケーブルで、コンソールを接続するためのポートです。

#### 10BASE-Tポート

UTPケーブルでスイッチなどを接続し、ネットワークを経由してアクセスするためのポートです。このポートの通信モードはHalf Duplexです。

#### カスケード切替スイッチ

10BASE-Tポートに接続した相手先の機器によって **X PC** と **HUB** のどちらかを選択します。

#### LNK LED

10BASE-Tポートのリンク状況を表示します。

#### STATUS LED

内蔵ソフトウェアの状況を表示します。

#### POWER LED

電源の供給状態を表示します。

#### RESET ボタン

本製品の設定をリセットするためのボタンです。

# 3 前面パネル

## LED

本製品の状態を表示します。

1

はじめに

LED	色	状態	表示内容
LNK	緑	点灯	10BASE-Tポートのリンクが確立しています。
		消灯	10BASE-Tポートのリンクが確立していません。
STATUS	緑	点灯	AT-WDM01本体、またはソフトウェアが正常に動作しています。
	橙	点灯	セルフテストを実行中です。
		点滅	ソフトウェアの起動中か、またはソフトウェアのダウンロード中です。
赤	点灯	AT-WDM01本体、およびソフトウェアに異常があります。	
POWER	緑	点灯	WD1004本体へ正常に接続され、AT-WDM01へ正常に電源が供給されています。
		消灯	WD1004本体または、AT-WDM01へ正常に電源が供給されていません。

## RESET ボタン

前面パネルのRESETボタンを押すと、本製品(AT-WDM01)の設定がリセットされます。WD1004本体をリセットするには電源の接続を切り、再接続をする必要があります。

## 4 設置と接続

### WD1004 への取り付け

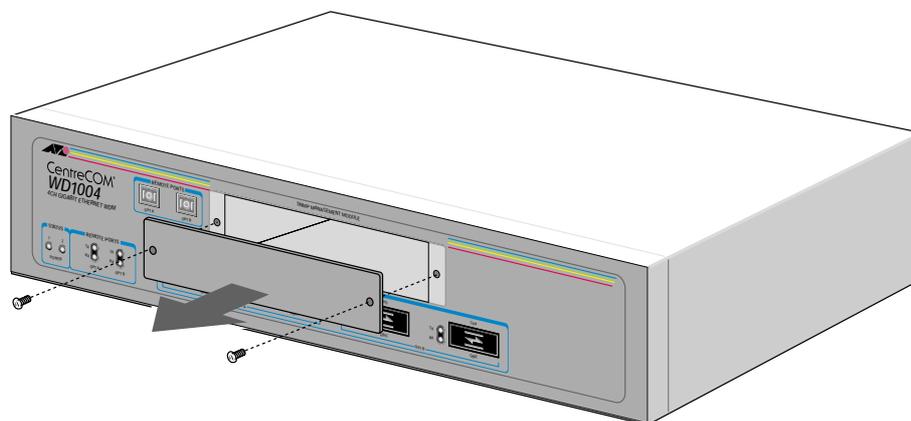
▶ マネージメントモジュール(本製品)は、静電気に非常に敏感な部品を使用しています。静電気によって、電子部品が損傷する恐れがありますので、取り扱いの際は、アースストラップを使用するなどの静電防止対策をして、ボード部分にできるだけ手を触れないようにしてください。  
また、保管するときは、マネージメントモジュールが梱包されていた静電防止袋に入れて、静電気のある場所を避けてください。

- 1 WD1004本体の電源ケーブルを抜きます。リダンダント電源モジュール(AT-WDPWRAC)を使用している場合はモジュール側の電源(POWER 2)もOFFになっていることを確認してください。

▶ マネージメントモジュールを装着する間は電源の供給を切ってください。マネージメントモジュールが破損する場合があります。

- 2 WD1004本体前面マネージメントモジュール用スロットのカバーパネルのネジをドライバーで緩めて、カバーパネルをはずします。

▶ カバーパネルはマネージメントモジュールを装着するとき以外ははずさないようにしてください。

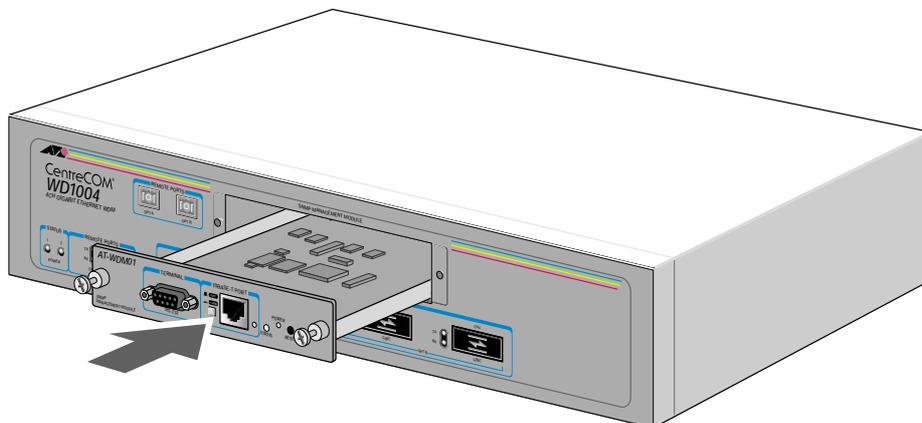


1

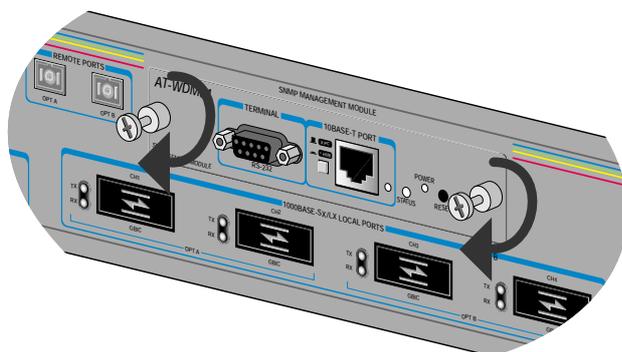
はじめに

## 4 設置と接続

- 3 マネージメントモジュールのボード部分をスロットのボードガイドにそって差し込みます。このとき、ボード部分には手を触れず、前面パネルを持って取り付けを行ってください。マネージメントモジュールの前面パネルがWD1004本体の前面パネルの位置とそろうまで押し込みます。



- 4 マネージメントモジュールの拘束ネジを締めます。



1

はじめに

## ターミナルポートの接続

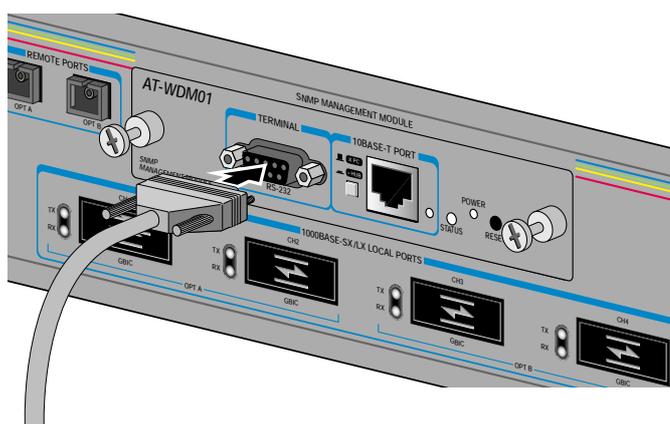
コンソールを使用して、内蔵ソフトウェアにアクセスする場合は、RS-232ストレートケーブルで、マネージメントモジュールのターミナルポートとコンソール側のRS-232コネクタを接続します。

### コンソール

コンソールはVT-100互換のターミナルエミュレーターを実行するRS-232コネクタ付きPCおよびワークステーション、またはRS-232コネクタ付き非同期ターミナルのご使用をお勧めします。

### ケーブル

ケーブルはマネージメントモジュール(本製品)に付属のRS-232ストレートケーブルをご使用ください。



## VT-Kit を使用する場合

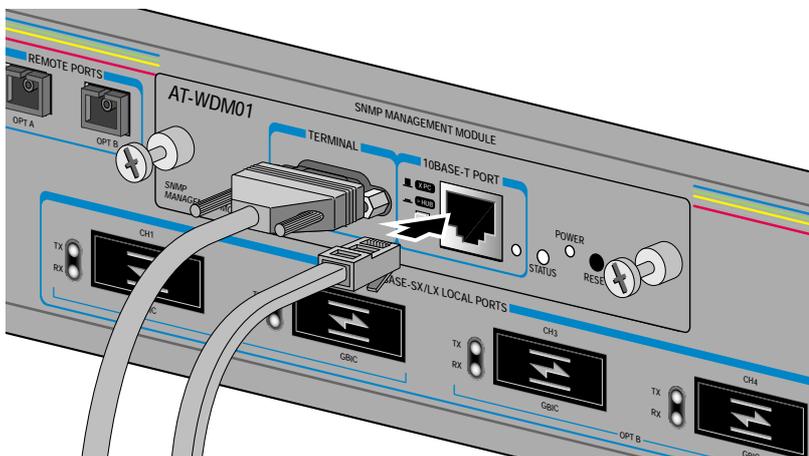
弊社では、PCをコンソールとして使用するためのVT-100エミュレーションとRS-232ケーブルをセットにした商品「VT-Kit」を販売しております。

VT-KitはPC9800シリーズ、およびIBM PC/XT/AT、DOS-V、AX機のいずれのPCでもご使用いただくことができます。

- セット内容：
- ・RS-232ストレートケーブル(23ピンオス-23ピンオス)
  - ・各種変換コネクタ
  - ・VTTERM( MS-DOS 版端末エミュレーション )

10BASE-T ポートの接続

10BASE-T ポートを接続することにより、ネットワークを経由して、内蔵ソフトウェアにアクセスすることができます。



- 1 カテゴリー3以上のUTPケーブル(ストレート)を10BASE-Tポートに接続してください。
- 2 接続する機器に合わせて10BASE-Tポートの左側のスイッチを設定します。

本製品とリピーターやスイッチを接続する場合 ..... **HUB**  
 本製品とPCを接続する場合 ..... **X PC**

- 3 接続先の機器の設定を本製品の通信モード(10Mbps/Half Duplex)と接続可能な通信モード(オートネゴシエーションまたは、10Mbps/Half Duplex)に合わせてください。

# 2

## 基本操作

---

この章では、本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェアの設定方法、メニューの操作について説明しています。

# 1 ログイン方法

マネージメントモジュール(本製品)にプリインストールされているマネージメントソフトを使用して、WD1004 の設定や管理を行います。

ソフトウェアにアクセスするには次の2種類の方法があります。

## ローカルセッション

ローカルセッションはマネージメントモジュールのターミナルポートとコンソールやエミュレーター機能のあるPCを直接接続してマネージメントを行うことです。

## Telnet セッション

マネージメントモジュールの10BASE-TポートにUTPケーブルを接続し、Telnet接続でネットワークを経由してマネージメントを行うことも可能です。Telnet接続ではローカルセッションと同じマネージメント機能が使用可能です。

 Telnet接続を行うためには、あらかじめIPアドレスとサブネットマスクをローカルセッションで設定しておく必要があります。

 マネージメントソフトに同時にアクセスできるターミナルの数はローカルセッション、Telnetセッションあわせて1台のみです。

## 2

### 基本操作

## 2 ターミナルソフトの設定

PC(ワークステーション)をターミナルとして使用するためのターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして、次の3つの設定方法を説明します。  
(コンソール用RS-232 ストレートケーブルは、COM1 に接続することとします。)

弊社VTTERM

Windows3.1 標準プログラム「ターミナル」

Windows 95/98/2000 、Windows NT 標準プログラム「ハイパーターミナル」

### VTTERM の設定手順

弊社VTTERM( VT-Kit )をご使用の場合、DOS プロンプトから次のコマンドを入力して、**Enter**キーを押します。

```
C: ¥>VTTERM
```

VTTERM が起動し、初期画面が表示されます。

VTTERM のデフォルトの設定は、本製品の通信条件を満たしていますので、特に設定をする必要はありません。

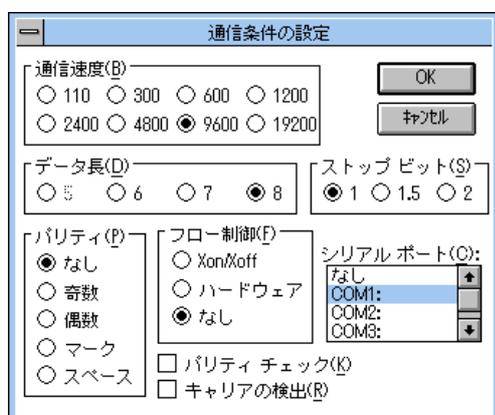
**Enter**キーを数回押すと、内蔵ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

## 2 ターミナルソフトの設定

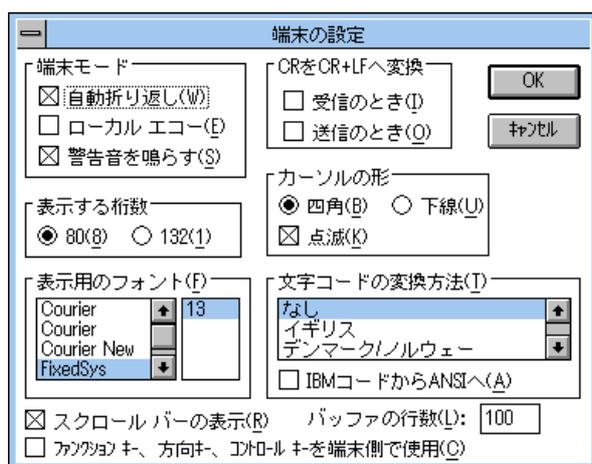
### 「ターミナル」の設定手順

Windows 3.1 が動作するPCでは、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして標準装備の「ターミナル」(Terminal.exe)を使用することができます。

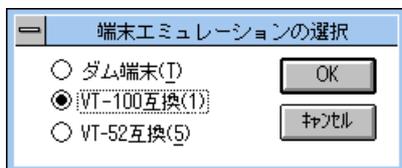
- 1 [プログラムマネージャ] -> [アクセサリ] 内の「ターミナル」をダブルクリックします。
- 2 [設定]メニューから[通信条件]を選択すると、「通信条件の設定」ダイアログボックスが表示されます。下図のように設定して、[OK]ボタンをクリックします。



- 3 [設定]メニューから[端末の設定]を選択すると、「端末の設定」ダイアログボックスが表示されます。下図のように設定して、[OK]ボタンをクリックします。



- 4 [設定]メニューから[端末エミュレーション]を選択すると、「端末エミュレーションの選択」ダイアログボックスが表示されます。  
下図のように設定して、[OK]ボタンをクリックします。



- 5 [電話]メニューから[ダイヤル]を選択し、電話番号を指定せずに[OK]ボタンをクリックします。
- 6 以上で設定が終わりました。  
[Enter]キーを数回押すと、内蔵ソフトウェアのセッションが開始され、メインメニューが表示されます。

**i** 本製品はオートボーレート機能を備えています。「ターミナル」画面から、数回[Enter]キーを押すことによって、本製品のボーレートが自動的に設定されます。

**!** ソフトウェアのセッションを終了させる場合は、メインメニューから[Quit]を選択してください。  
[Quit]を実行してセッションを終了させないと、リモートからの接続やソフトウェアのダウンロードができなくなります。

## 2 ターミナルソフトの設定

### 「ハイパーターミナル」の設定手順

Windows 95/98/2000、Windows NT が動作するPCやワークステーションでは、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして標準装備の「ハイパーターミナル」(Hyperterm.exe)を使用することができます。

- 1 Windows 95の場合-[スタート]メニューの中から[プログラム]->[アクセサリ]->[ハイパーターミナル]を選択して、ハイパーターミナルフォルダ内の「Hyperterm.exe」をダブルクリックして起動します。  
Windows 98/2000の場合-[スタート]メニューの中から[プログラム]->[アクセサリ]->[通信]->[ハイパーターミナル]を選択して、起動します。  
Windows NTの場合-[スタート]メニューの中から[プログラム]->[アクセサリ]->[ハイパーターミナル]->[ハイパーターミナル]を選択して、起動します。
- 2 「接続の設定」ダイアログボックスで、適切な名前を入力し、アイコンを選んで、[OK]ボタンをクリックします。  
モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ]をクリックします。
- 3 Windows 95の場合-「電話番号」ダイアログボックスが表示されます。  
[接続方法]の欄で、[COM1へダイレクト]を選択して、[OK]ボタンをクリックします。  
Windows 98/2000の場合-「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。  
[接続方法]の欄で、[COM1へダイレクト]を選択して、[OK]ボタンをクリックします。  
Windows NTの場合-「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。  
[ポートの設定]タブの[接続方法]の欄で、[COM1]を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

- 4 「COM1 のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。下図のように設定して、[ OK ] ボタンをクリックします。



- 5 「XXXX- ハイパーターミナル」のような、先ほど設定した名称のウィンドウが表示されます。  
[ ファイル ] メニューの中から [ プロパティ ] を選択すると、「XXXX のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。  
[ 設定 ] タブを下図のように設定して、[ OK ] ボタンをクリックします。



## 2 ターミナルソフトの設定

6 以上で設定が終わりました。

**Enter** キーを数回押すと、内蔵ソフトウェアのセッションが開始され、メインメニューが表示されます。

 本製品はオートボーレート機能を備えています。「ターミナル」画面から、数回 **Enter** キーを押すことによって、本製品のボーレートが自動的に設定されます。

 ソフトウェアのセッションを終了させる場合は、メインメニューから [ Quit ] を選択してください。

[ Quit ] を実行してセッションを終了させないと、リモートからの接続やソフトウェアのダウンロードができなくなります。

## 3 Telnet でログインする

本製品はTelnet サーバーを内蔵しているため、他のTelnet クライアントからネットワーク経由で、ログインすることができます。

ここでは、次の3つのTelnet クライアント設定方法を説明します。

Windows 95/98/2000、Windows NT標準Telnet アプリケーション「TELNET」  
弊社「CentreNET PC/TCP」の「Wvtn」(Windows 3.1 )  
弊社「CentreNET PC/TCP」の「vtn」(MS-DOS )

 Telnetからログインする場合は、本製品にIPアドレスが設定されている必要があります。あらかじめコンソールからIPアドレスを設定しておいてください。

 参照 3-25 ページ「IPパラメーター - Ip address」

### 「TELNET」の設定手順

Windows 95/98/2000、Windows NT は、TCP/IP プロトコルを実装していますので、Windows 95/98/2000、Windows NT が動作するPC、およびワークステーションでは、標準Telnet アプリケーション「TELNET」(Telnet.exe)を使用することができます。

- 1 ネットワークに合わせてTCP/IP プロトコルの環境設定を行います。

Windows 95 の場合 - [スタート]メニューから[設定] ->[コントロールパネル]で「コントロールパネル」を開きます。

「ネットワーク」をダブルクリックし、[ネットワークの設定]タブのリストから[TCP/IP]を選択して[プロパティ]ボタンをクリックして、行います。

Windows 98 の場合 - [スタート]メニューから[設定] ->[コントロールパネル]で「コントロールパネル」を開きます。

[ネットワーク]をダブルクリックし、[ネットワークの設定]タブのリストから[TCP/IP ->(ご使用のアダプター)]を選択して[プロパティ]ボタンをクリックして行います。

Windows 2000 の場合 - [スタート]メニューから[設定] ->[コントロールパネル]で「コントロールパネル」を開いて、[ネットワークとダイヤルアップの接続]をダブルクリックします。

[ローカルエリア接続]を右クリックして[プロパティ]ボタンをクリックして行います。

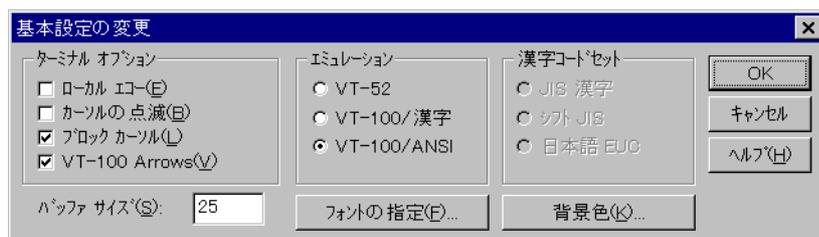
## 3 Telnet でログインする

Windows NT の場合 - [スタート]メニューから[設定] ->[コントロールパネル]で「コントロールパネル」を開いて、「ネットワーク」をダブルクリックし、[プロトコル]タブのリストから、[TCP/IP プロトコル]を選択して[プロパティ]ボタンをクリックして行います。

- 2 Windows 95/98/2000 の場合 - 「エクスプローラ」から[Windows (WINDOWS )]フォルダ内の「Telnet.exe ( TELNET.EXE )」をダブルクリックして、「Telnet.exe ( TELNET.EXE )」を起動します。

Windows NT の場合 - 「Windows NT のエクスプローラ」から、[WINNT] -> [system32] フォルダ内の「telnet.exe 」をダブルクリックして、「telnet.exe 」を起動します。

- 3 [ターミナル]メニューから[設定]を選択すると、[ターミナルの設定] (基本設定の変更) ダイアログボックスが表示されます。  
[エミュレーション]欄で[VT-100/ANSI] ラジオボタンをクリックします。



- 4 [接続]メニューから[リモートシステム]をクリックすると、[接続]ダイアログボックスが表示されます。  
[ホスト名]欄に、あらかじめ設定しておいた本製品のIPアドレスを入力して、[接続]ボタンをクリックします。



- 5 以上で、設定が終わりました。セッションが確立し、内蔵ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

## CentreNET PC/TCP の設定手順

通常のMS-DOS パソコンおよびWindows 3.1 環境で、Telnet を使用する場合はTCP/IP 通信ソフトが必要です。

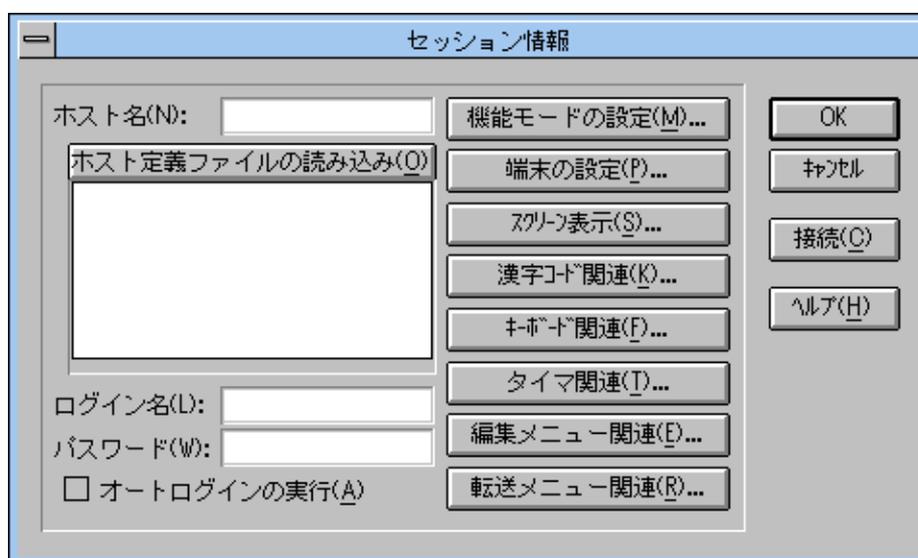
TCP/IP ソフトがインストールされていない場合は、各マニュアルをご覧になりインストールを行ってください。

ここでは、弊社「CentreNET PC/TCP 」をご使用の場合の接続方法を説明します。(あらかじめ、「CentreNET PC/TCP 」がインストールされているものとします。)

CentreNET PC/TCP には、Windows 3.1 環境で動作する「Wvtn 」とMS/DOS 環境で動作する「vtn 」の2 つのTelnet コマンドがあります。

### Wvtn

- 1 [プログラムマネージャ]->[PCTCPWIN] 内の[Wvtn] をダブルクリックして、起動します。
- 2 「Wvtn 」ウィンドウで、[セッション] メニューから [新規作成] を選択すると、次のような「セッション情報」ダイアログボックスが表示されます。  
[ホスト名] 欄に、あらかじめ設定しておいた本製品のIP アドレスを入力して、[OK] ボタンをクリックします。



- 3 以上で、設定が終わりました。セッションが確立し、内蔵ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

## 3 Telnet でログインする

vtn

- 1 MS-DOS プロンプトが起動していることを確認します。
- 2 次のコマンドを入力して、`[Enter]`キーを押します。

```
C:\>VTN
```

- 3 次のようなホスト名を入力するためのプロンプトが表示されます。  
あらかじめ設定しておいた本製品のIPアドレスを入力して、`[Enter]`キーを押します。

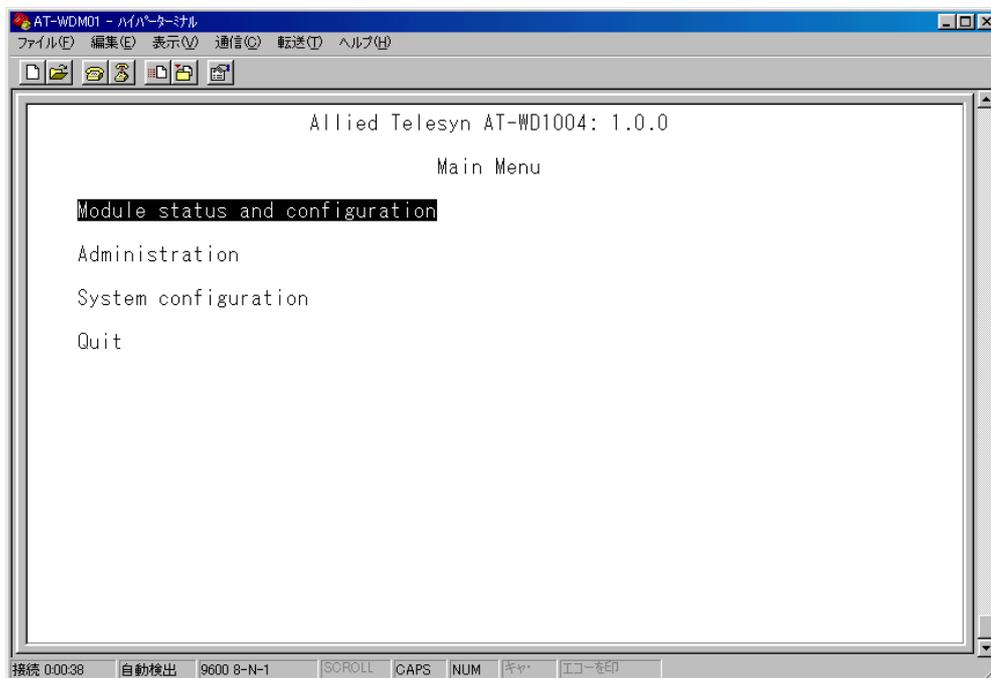
```
Host Name:
```

- 4 以上で、設定が終わりました。セッションが確立し、内蔵ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

## 4 メニューの操作方法

メニュー画面の操作方法を説明します。

ソフトウェアにアクセスすると、次のようなメインメニュー画面が表示されます。



## 2

### 基本操作

#### 画面表示

現在「使用可能」(Enabled)に設定されているオプションには、「>」マークがついています。

選択するオプションは、ハイライトで表示されます。

#### オプションを選択する

選択するオプションの頭文字を入力(大文字、小文字の区別無し)してハイライト表示させ、**[Enter]**キーを押します。

同じ頭文字を持つオプションが2つ以上ある場合は、頭文字を複数回入力して目的のオプションをハイライト表示させます。

または、**[↑]**(上)と**[↓]**(下)の方向キーを使用して、選択するオプションをハイライト表示させて、**[Enter]**キーを押します。(アプリケーションによっては、この操作方法が使用できない場合があります。)

選択するオプションがハイライト表示されたら、**[Enter]**キーを押します。

ポート番号など数字のオプションは、数字を入力して、ハイライト表示させ、**[Enter]**キーを押します。

## 4 メニューの操作方法

---

### 数字や名前を入力・削除する

オプションを選択し、**[Enter]** キーを押して「->」プロンプトを表示させます。「->」プロンプトの後に数字や名前を半角英数字入力して、**[Enter]**キーを押します。

数字や名前を削除する( Null に設定する )場合は、「->」プロンプトの後に( 現在設定されている数字や名前の上から )**[スペース]**を入力して、**[Enter]**キーを押します。

アドレスを削除する場合は「0.0.0.0」と入力して、**[Enter]**キーを押します。

---

### 画面移動

前の画面に戻る場合は、画面一番下の[Return to ~]オプションを選択するか、**[Esc]**キーを押します。

---

### 設定の終了

セッションを終了する場合はメインメニュー画面の[Quit] を選択し、**[Enter]**キーを押してください。この操作によってセッションを終了させるまで、他のターミナルからのアクセスが拒否されます。

# 3

## マネージメントメニュー

---

この章では、ソフトウェアの管理機能と設定内容についてメニュー項目ごとに説明しています。

# 1 メニュー項目

本製品のメニューは次のような構成になっています。

各項目の機能と設定の方法をメインメニュー画面の上から順に説明していきます。

## 2 ポート設定 -Port / module status and configuration

各ポート・モジュールのステータス表示や設定を行います。ポートの使用可・使用不可、ポート名の変更などのオプション設定が可能です。

## 3 システム管理 -Administration

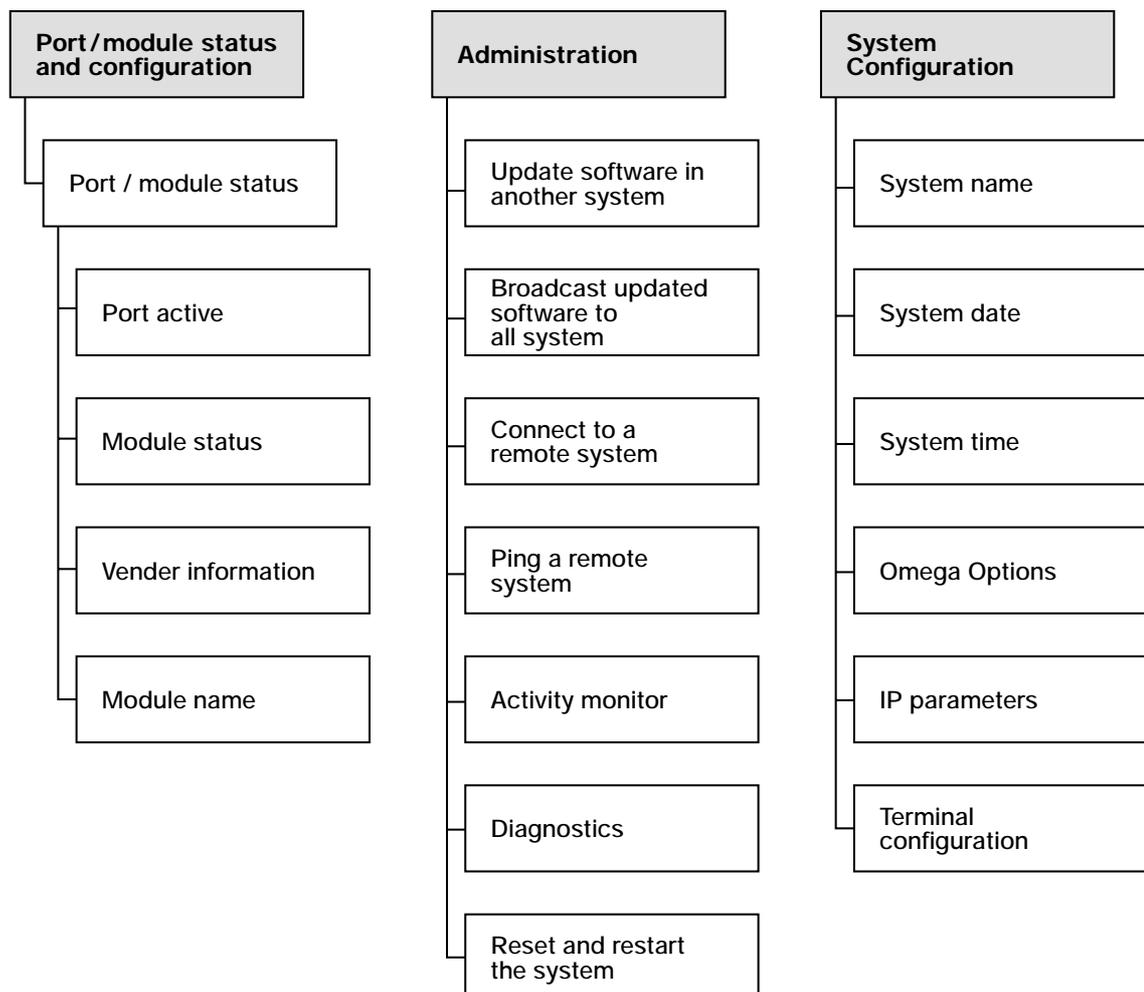
システム管理のための設定や情報の表示を行います。

ソフトウェアのダウンロード、他のシステムへの接続、Ping テスト、動作(アクティブ)モニター、システム診断、システムリセットなどのオプションがあります。

## 4 システム設定 -System configuration

システムの基本的な設定を行います。システム名や日付・時刻、IP パラメーター、ターミナル設定などのオプションがあります。

メニュー項目の一覧



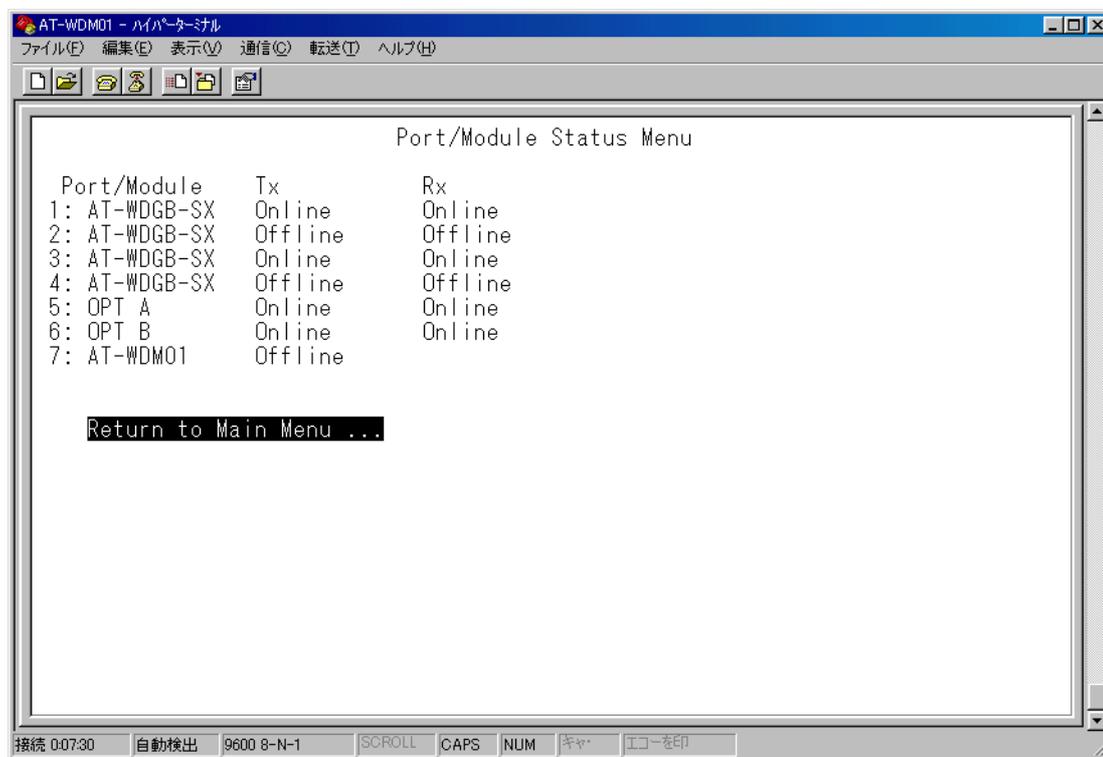
## 2 ポート設定

### ポートステータスの表示

#### Port / Module Status and Configuration

ポートごとの現在のステータスを表示します。

[ Main Menu ]->[ Port status and configuration ]と進み、「Port Status Menu」画面を表示します。



#### Port/Module

ポート名/モジュール名(GBICモジュールを装着している場合)を表示します。GBICモジュールを装着していないローカルポートは(Not inserted)と表示されます。

#### Tx・Rx

それぞれのポートの状態を表示しています。

メニュー番号	ステータス	状態	
1~4	Tx	Online	対向するWD1004の光受信信号を正常に認識しています。
		Offline	対向するWD1004の光受信信号を認識していません。
	Rx	Online	自ポートが光信号を正常に受信しています。
		Offline	自ポートが光信号を受信していません。。
5・6	Tx	Online	ローカルポートの光受信信号を正常に認識しています。
		Offline	ローカルポートの光受信信号を認識していません。
	Rx	Online	対向するWD1004の光受信信号を正常に受信しています。
		Offline	対向するWD1004の光受信信号を受信していません。
7	Online	AT-WDM01の10BASE-Tポートのリンクが確立しています。	
	Offline	AT-WDM01の10BASE-Tポートのリンクが確立していません。	

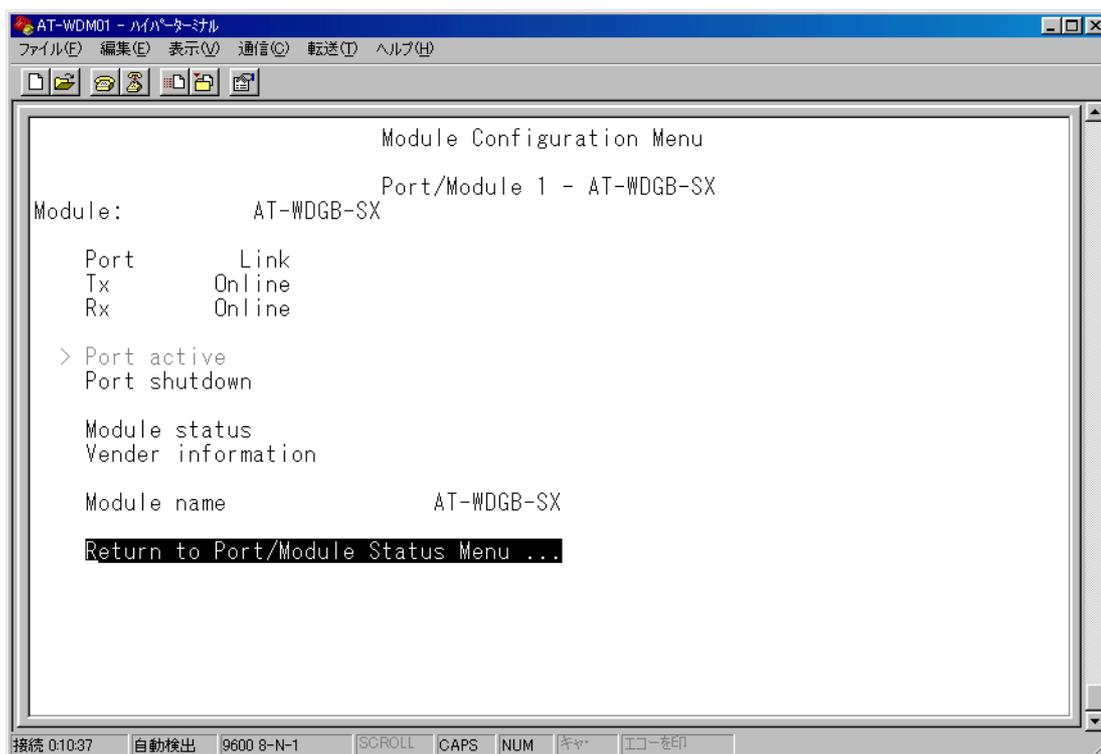
## ポートコンフィグレーション

### Module Configuration Menu

選択したポートのオプション設定を行います。

[ Main Menu ]->[ Port status and configuration ]と進み、「Port Status Menu」画面からポート番号を選択して、「Module Configuration Menu」画面を表示します。

各オプションを上から順に説明します。



**i** Module statusとVender informationはGBICモジュールのオプション画面のみに表示されます。

### Port active/Port shutdown

ポートの使用可・使用不可を設定します。デフォルトは「Port active」です。

#### Port active

ポートをパケットの送受信ができる状態にします。

#### Port shutdown

ポートを論理的に切り離し、送受信ができない状態にします。

オプションを選択すると、すぐに該当のポートに反映されます。

この項目は「7: AT-WDM01」ポートのオプション画面にはありません。

---

### Module status

GBIC モジュールの仕様を表示します。このオプションを変更することはできません。

---

### Vender information

GBIC モジュールの製品情報を表示します。このオプションを変更することはできません。

---

### Module name

ポート名を設定します。各ポートに接続先のホスト名や場所の名前を割り当てると、ポートを管理するのに便利です。デフォルトはそれぞれ装着した GBIC モジュール名、OPT A・B、AT-WDM01 です。

#### ポート名の設定

1. 「Module name」を選択して既存のポート名をハイライト表示します。
2. **[Enter]** キーを押して「->」プロンプトを表示します。
3. 「->」プロンプトに続けて10文字までの半角英数字を入力し、**[Enter]** キーを押します。

#### ポート名の削除

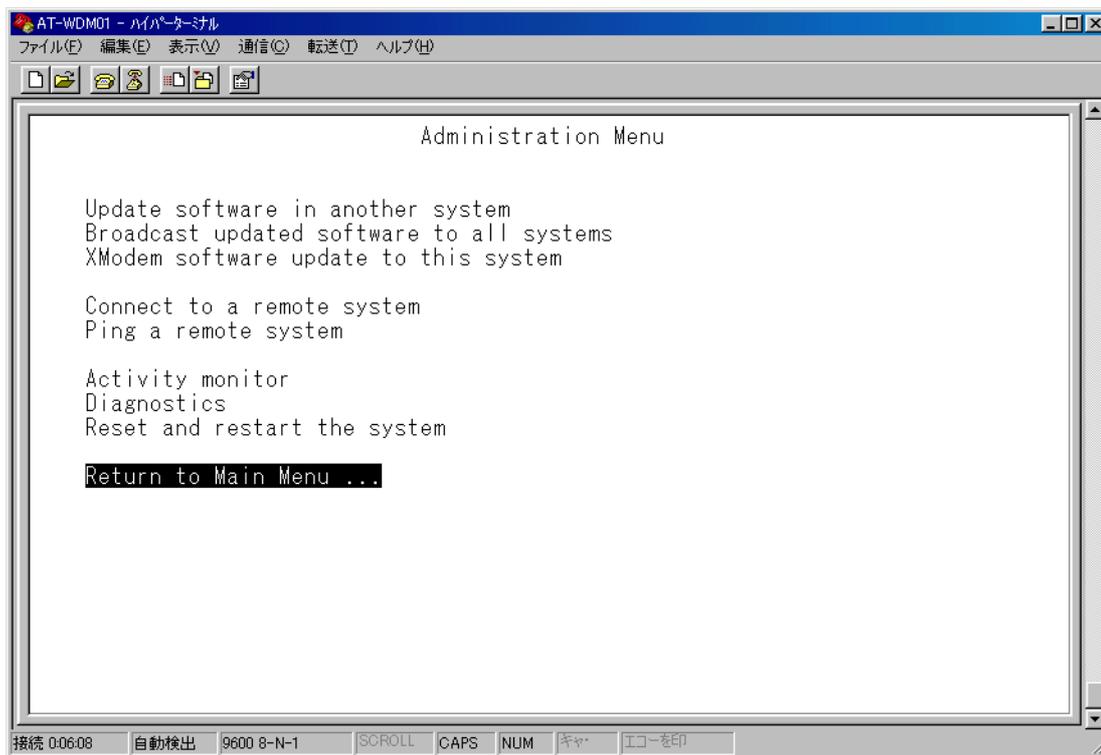
1. 「Module name」を選択して既存のポート名をハイライト表示します。
2. 既存のポート名の上から **[スペース]** を入力し、**[Enter]** キーを押します。

ポート名の設定は、すぐに画面に反映されます。「Port configuration Menu」画面の中央のポート番号の右側に、設定した名前が表示されます。(削除した場合は、表示がなくなります。)

また、「Port Status Menu」画面のポート番号の右側にも、設定した名前が表示されます。(削除した場合は、デフォルトのポート名が入ります。)

## 3 システム管理

[ Main Menu ]->[ Administration ]と進み、「Administration Menu」画面を表示します。



この画面では、[ Administration ]のメニューオプションが表示されます。各メニューオプションを上から順に説明します。

3

マネージメントメニュー

## ソフトウェアのダウンロード(ネットワーク上のシステム)

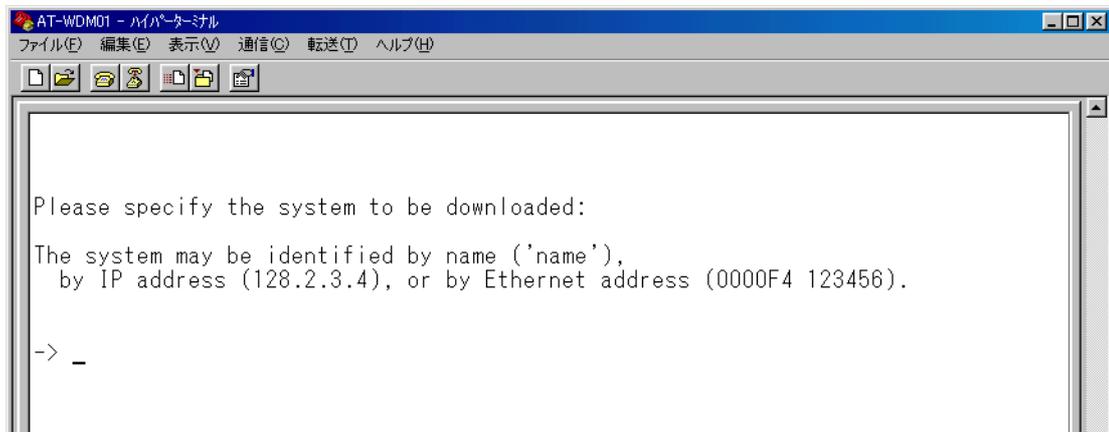
Update software in another system

ソフトウェアをネットワーク上の他のシステム(同一製品)1台にダウンロードします。

**!** ソフトウェアのダウンロード中は、本体から電源ソケットを抜いたり、電源プラグを電源コンセントから抜いたりしないでください。

### 他のシステムへのソフトウェアダウンロード

1. [ Main Menu ]->[ Administration ]->[ Update software in another system ] と進み、次の画面を表示します。



2. ダウンロード先のシステムを次のいずれかの方法で指定します。

IP アドレス  
システム名( System name )  
MAC アドレス( Ethernet address )

画面に表示されている入力方法に従って、「->」プロンプトに続けて半角英数字を入力し、**Enter**キーを押します。(システム名はシングルコーテーション[]で囲んで入力してください。)

3. アクティブモニター( Activity monitor )画面になり、ダウンロードの経過が表示されます。ダウンロードが正常に終了すると、画面に「 completed. 」と表示されます。
4. **Enter**キーを押すと、前の画面に戻ります。  
ダウンロード先のシステムは自動的にリセットされます。

- ▶ 不具合が発生するなどしてダウンロードが失敗した場合は、本体前面のリセットボタンを押すか、電源ケーブルを接続しなおしてシステムをリセットします。「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . . .」と表示されている間に、任意のキーを押して、拡張システム診断メニュー( ATI Diagnostics )を表示します。Ⓜを入力して [ B: BOOT System Software ] オプションを選択し、再度リセットを行います。

## ソフトウェアのダウンロード(ネットワーク上の全システム)

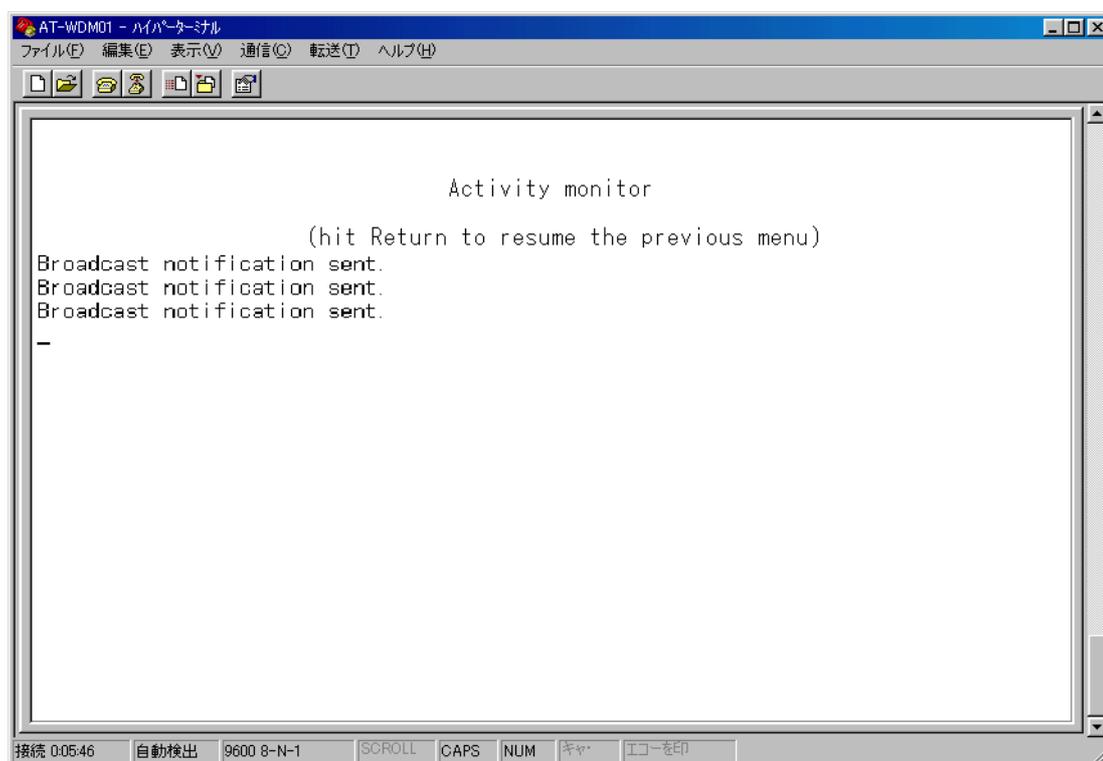
Broadcast updated software to all systems

ソフトウェアをネットワーク上のすべてのシステム(同一製品)にダウンロードします。

❗ ソフトウェアのダウンロード中は、本体から電源ソケットを抜いたり、電源プラグを電源コンセントから抜いたりしないでください。

### ネットワーク上の全システムへのソフトウェアダウンロード

1. [ Main Menu ]->[ Administration ]->[ Broadcast updated software to all systems ]と進み、アクティブモニタ(Activity monitor)画面を表示します。



この画面が表示されるとすぐに、システムはネットワーク上の他のすべてのシステムに対して、ダウンロードが行われることを通知します。通知を受けたアップグレードの必要があるシステムは、順番にリクエストメッセージで応答します。

ネットワーク上のシステムがリクエストをして、ソフトウェアのダウンロードを行っている経過が画面に表示されます。ダウンロードが正常に終了すると、画面に「completed. 」と表示されます。

2. **[Enter]**キーを押すと、前の画面に戻ります。  
ダウンロード先のシステムは自動的にリセットされます。

- ▶ 不具合が発生するなどしてダウンロードが失敗した場合は、本体前面のリセットボタンを押すか、電源ケーブルを接続しなおしてシステムをリセットします。「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . .」と表示されている間に、任意のキーを押して、拡張システム診断メニュー( ATl Diagnostics )を表示します。 [B]を入力して[ B: BOOT System Software ] オプションを選択し、再度リセットを行います。
- ▶ [ Broadcast updated software to all systems ] メニューで、ルーターを介して接続されているシステムに対してソフトウェアのアップデートは行われません。
- ▶ ネットワーク上にアップグレード要求をするシステムが多数ある場合、特にネットワークが混雑している場合は、すべてのシステムにダウンロードが行われない可能性があります。確実にダウンロードを行うために、[ Broadcast updated software to all systems ] を繰り返し実行してください。

## ソフトウェアのアップグレード(XModem)

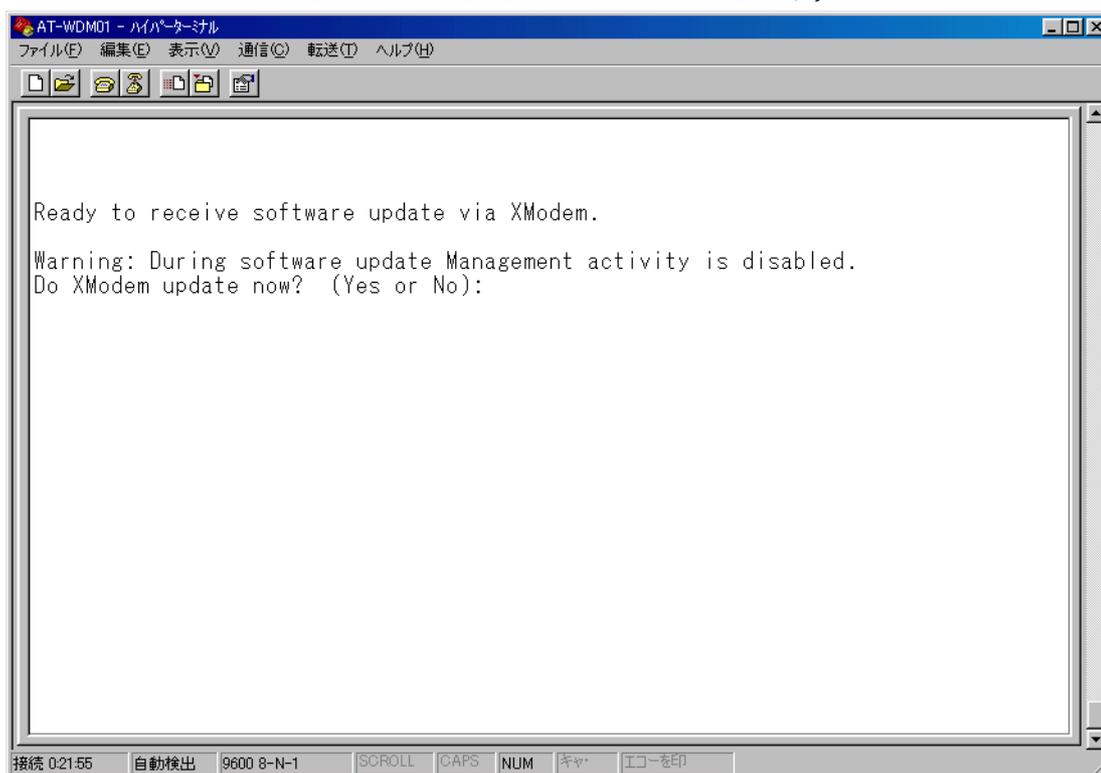
XModem software update to this system

現在使用中のシステムにXModem によるソフトウェアのアップグレードを行います。現在使用しているターミナルエミュレーション・ソフトウェアがファイル転送機能をサポートしていることを確認してください。

❗ ソフトウェアのダウンロード中は、本体からRS-232ケーブルを抜かないでください。

### XModem によるソフトウェアダウンロード

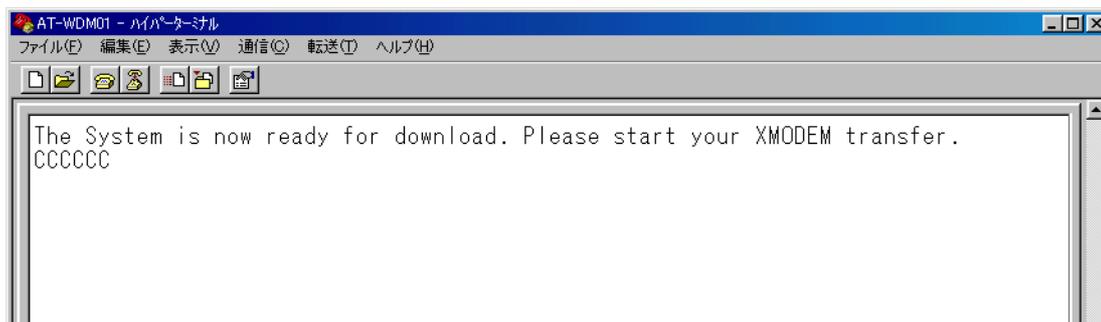
1. [ Main Menu ]->[ Administration ]->[ XModem software update to this system ]とすすみ、次の画面を表示します。  
(このメニューオプションは、コンソールからローカル(RS-232 経由)で、ソフトウェアにアクセスしている場合のみ表示されます。)



2. XModem によるダウンロードを行うかどうかを確認するメッセージが表示されます。実行する場合は $\text{Y}$ 、実行しない場合は $\text{N}$ を入力してください。  
 $\text{N}$ を入力すると、前の画面に戻ります。

## 3 システム管理

3. を入力すると次のような画面が表示されて、ダウンロードソフトウェアが起動します。



4. リセットシーケンスが開始され、ダウンロードの準備完了のメッセージが表示されます。
5. PC(ワークステーション)から、ファイルを転送します。  
プロトコルタイプは「Xmodem」を選択してターミナルソフトウェアのファイル送信を実行します。(ファイル転送の手順については、使用しているターミナルソフトウェアのマニュアルなどをお読みください。)

 4-2 ページ「バージョンアップ手順-Xmodemを使用したアップグレード方法」

6. ファイル転送が正常に終了すると、「XMODEM transfer has successfully completed.」のメッセージが表示されて、システムが自動的にリセットされます。
7. セルフテストが終了したら  キーを押して、メインメニューに戻ります。

 不具合が発生するなどしてダウンロードが失敗した場合は、本体前面のリセットボタンを押すか、電源ケーブルを接続しなおしてシステムをリセットします。「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . . .」と表示されている間に、任意のキーを押して、拡張システム診断メニュー(ATI Diagnostics)を表示します。を入力して [ B: BOOT System Software ] オプションを選択し、再度リセットを行います。

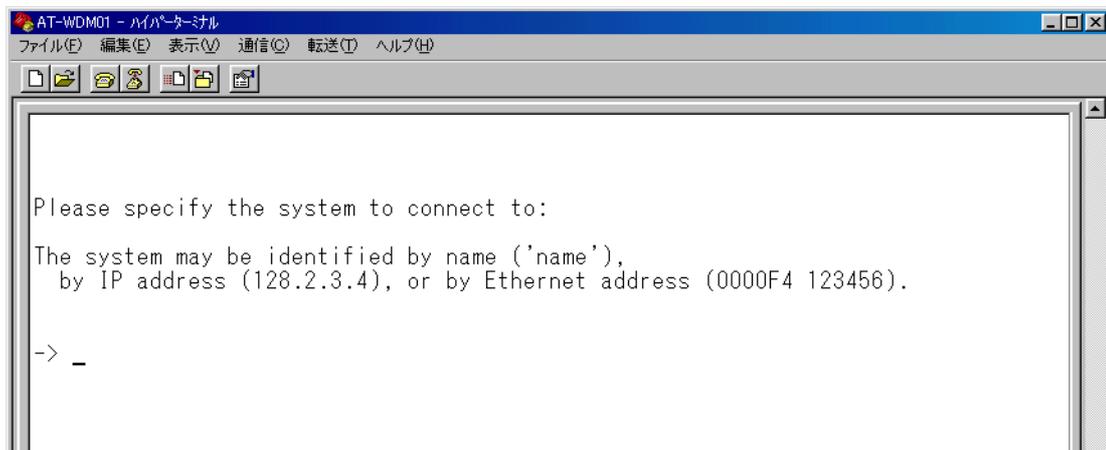
## リモートシステムへの接続

Connect to a remote system

ネットワーク上の他のシステム(同一製品)にTelnetアプリケーションを使用せずにアクセスします。

### リモートシステムへの接続

1. [ Main Menu ]->[ Administration ]->[ Connect to a remote system ]とすみ、次の画面を表示します。  
(このメニューオプションは、コンソールからローカル(RS-232 経由)で、ソフトウェアにアクセスしている場合のみ表示されます。)



2. 接続先のシステムを次のいずれかの方法で指定します。

IP アドレス

システム名( System name )

MAC アドレス( Ethernet address )

画面に表示されている入力方法に従って、「->」プロンプトに続けて半角英数字を入力し、**[Enter]**キーを押します。(システム名はシングルコーテーション[']で囲んで入力してください。)

3. すぐにセッションが開始されて、リモートシステムのメインメニューが表示されます。(パスワードが設定されている場合は、パスワード入力が必要となります。)
4. セッションを終了する場合は、メインメニューから**[Q]**を入力して**[Enter]**キーを押します。

**!** Connect to a remote system メニューオプションを実行してアクセスしたリモートシステム上で、同メニューオプションは実行できません。  
(Administration Menu 画面上に表示されません。)

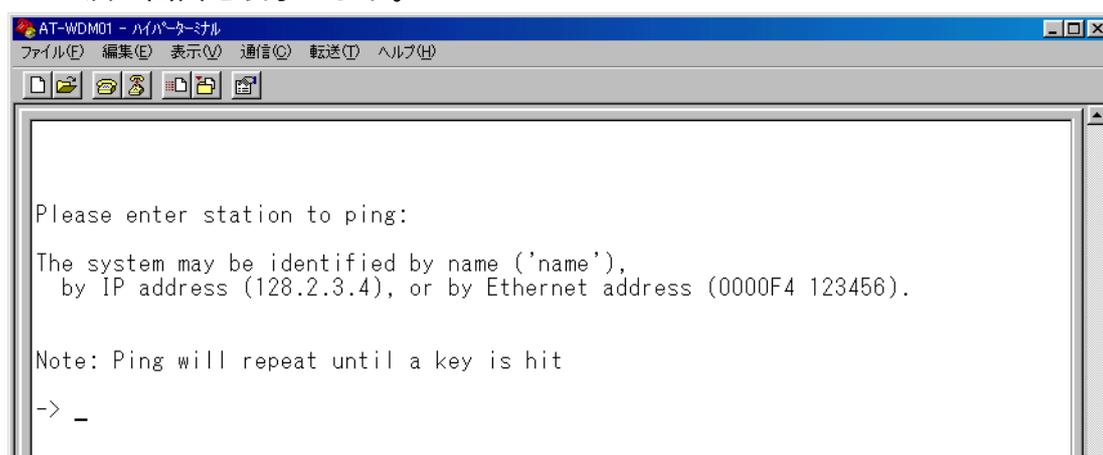
## Ping テスト

Ping a remote system

Ping プログラムを使用して、ネットワーク上の他のシステムの通信テストを行います。指定したシステムに対して、ICMP エコーリクエストを送信します。

## 他のシステムへの Ping テスト

1. [ Main Menu ]->[ Administration ]->[ Ping a remote system ]とすすみ、次の画面を表示します。



2. Ping テストの対象となるシステムを次の方法で指定します。

IP アドレス  
 システム名( System name )  
 MAC アドレス( Ethernet address )

画面に表示されている入力方法に従って、「->」プロンプトに続けて半角英数字を入力し、**[Enter]**キーを押します。(システム名はシングルコーテーション[']で囲んで入力してください。)

3. すぐにICMP エコーリクエストの送信が開始されて、結果が画面表示されます。**[Enter]**キーを押すと、前の画面に戻ります。

## アクティブモニター

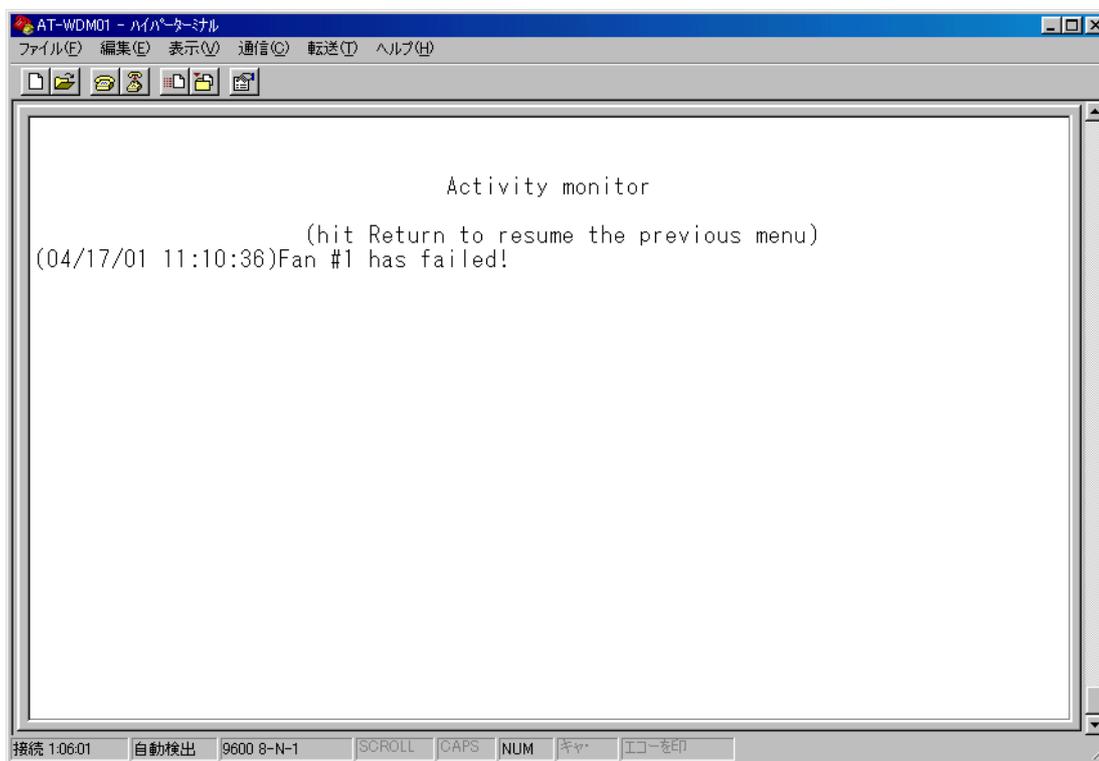
### Activity monitor

システム上の動作がメッセージ(英数字)で表示されます。  
ソフトウェアのダウンロード、Ping テストやエラー情報など、システムで進行中の動作を表示することができます。

#### アクティブモニターの表示

[ Main Menu ]->[ Administration ]->[ Activity monitor ]とすすみ、次の画面を表示します。

次の画面は電源部のファンの動作エラーを表示しています。



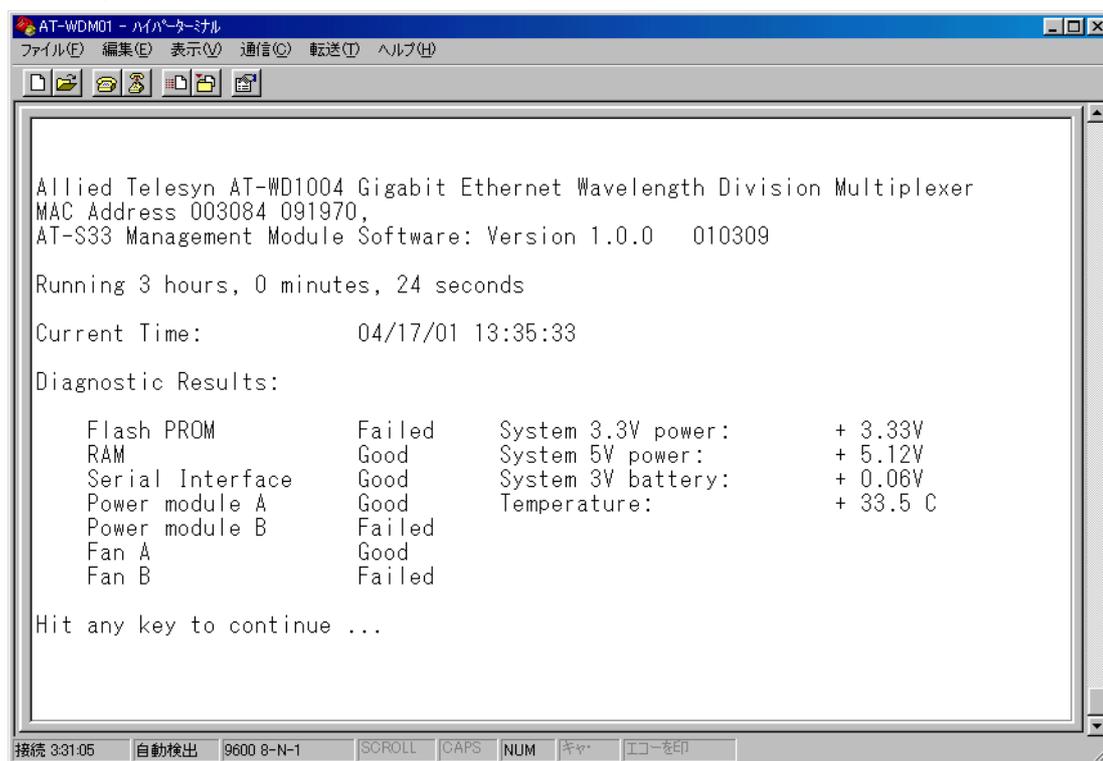
## システム診断

### Diagnostics

7項目(Flash PROM・RAM・Serial Interface・主電源・リダンダント電源モジュール・Fan A・Fan B)のシステム診断テストの結果、システムの供給電圧、システム内温度を表示します。

#### システム診断のテストの実行

[ Main Menu ]->[ Administration ]->[ Diagnostics ]とすすみ、次の画面を表示します。



診断結果の他に、次の項目を参照することができます。

ヘッダ部分:

製品名

MAC アドレス

ソフトウェア名とソフトウェアバージョン

最後にリセットしたときから現在までのシステムの稼働時間

ユーザー設定による現在の日付と時刻

Diagnostics の詳細については以下を参照ください。

 4-10 ページ「トラブルシューティング - セルフテストについて」

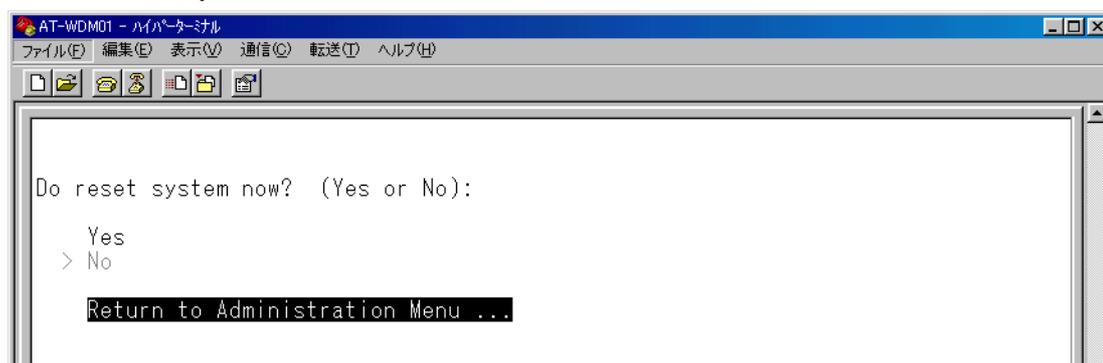
## システムリセット

Reset and restart the system

システムをリセットします。

### システムリセットの実行

1. [ Main Menu ]->[ Administration ]->[ Reset and restart the system ]とすすみ、次の画面を表示します。(このメニューオプションは、コンソールからローカル(RS-232 経由)で、ソフトウェアにアクセスしている場合のみ表示されます。)



2. 以下のオプションを選択します。

#### Yes/No

システムをリセットするかどうかを選択します。

デフォルトはNoで、リセットするたびにデフォルトに戻ります。

Yes

システムがリセットされます。

No

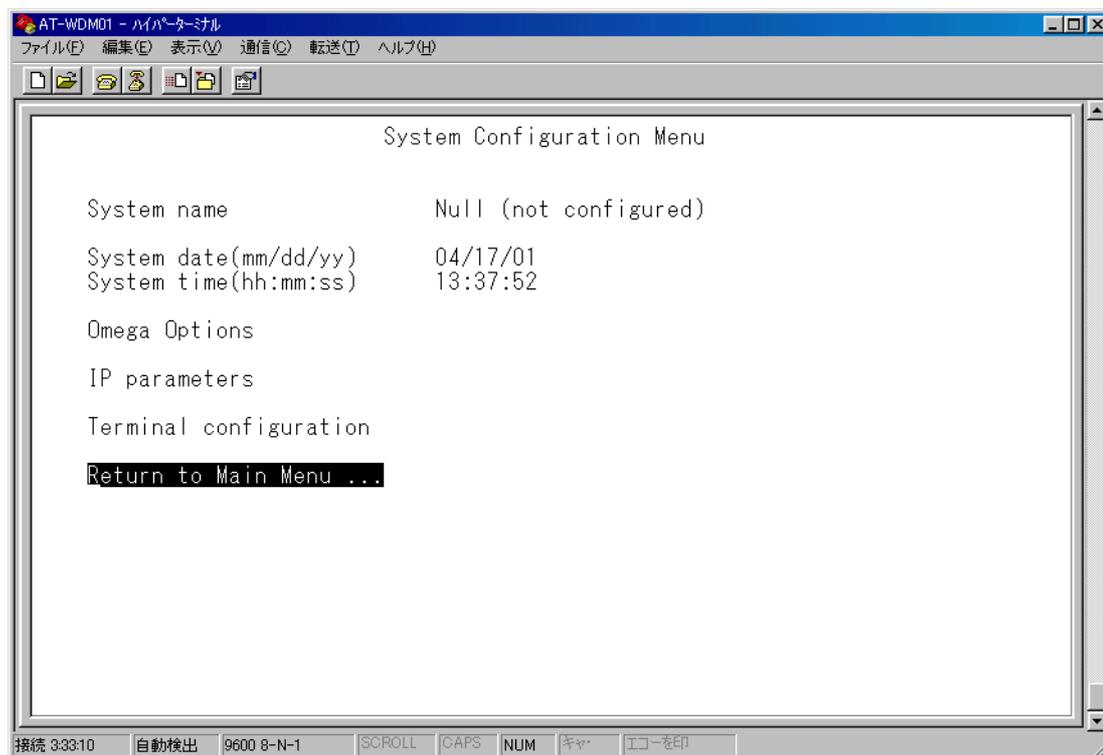
前の画面に戻ります。

3. システムリセットを実行した場合セルフテストが実行され、その経過が画面に表示されます。最後に「(press RETURN once or twice to enter Main Menu )」と表示されたら、**[Enter]**キーを1、2回押して、メインメニューに戻ります。

**i** 前面パネルのリセットボタンで、システムをリセットすることも可能です。

## 4 システム設定

[ Main Menu ]->[ System Configuration ]とすすみ、「System Configuration Menu」画面を表示します。



この画面では、[ System Configuration ]の5つのメニューオプションと1つのオプションが表示されます。

各メニューオプション(オプション)を上から順に説明します。

### システム名

System name

システム名を設定します。デフォルトは「Null (not configured)」です。

本製品には、各システムを識別する方法として、MAC アドレス、IP アドレス(ユーザーが設定)、システム名(ユーザーが設定)、ホスト名(DNS サーバーで指定)があります。

ダウンロードや他のシステムへの接続を誤って実行しないためにも、固有のシステム名を設定しておくことをお勧めします。

また、ここで設定した名称は、MIB-IIの<SysName> に反映されて、SNMP マネージャでシステム名を確認することができます。

### システム名の設定

1. [ Main Menu ]->[ System Configuration ]とすすみ、**[F]**を入力して「System name」の入力フィールドにカーソルを移動します。
2. **[Enter]**キーを押して「->」プロンプトを表示します。  
「->」プロンプトに続けて20文字までの半角英数字を入力し、**[Enter]**キーを押します。

### システム名の削除

1. [ Main Menu ]->[ System Configuration ]とすすみ、を入力して既存のシステム名をハイライト表示します。
2. キーを押して、「->」プロンプトを表示します。
3. 「->」プロンプトに続けて(すでに設定してある名前の上から) を入力し、キーを押します。

システム名の設定は、すぐに画面に反映されます。すべてのメニューの画面の最上行に、設定した名前が表示されます。(削除した場合は、表示がなくなります。)

---

### 日付の設定

#### System date

1. [ Main Menu ]->[ System Configuration ]とすすみ、を入力して、「System date( mm/dd/yy )」の入力フィールドにカーソルを移動します。
2. キーを押すと「->」プロンプトが表示されます。  
「->」プロンプトに続けて半角数字で、月 / 日 / 西暦年の下二桁を入力し、キーを押します。

---

### 時刻の設定

#### System time

1. [ Main Menu ]->[ System Configuration ]とすすみ、を入力して、「System date( hh:mm:ss )」の入力フィールドにカーソルを移動します。
2. キーを押すと「->」プロンプトが表示されます。  
「->」プロンプトに続けて半角数字で時刻を入力し、キーを押します。

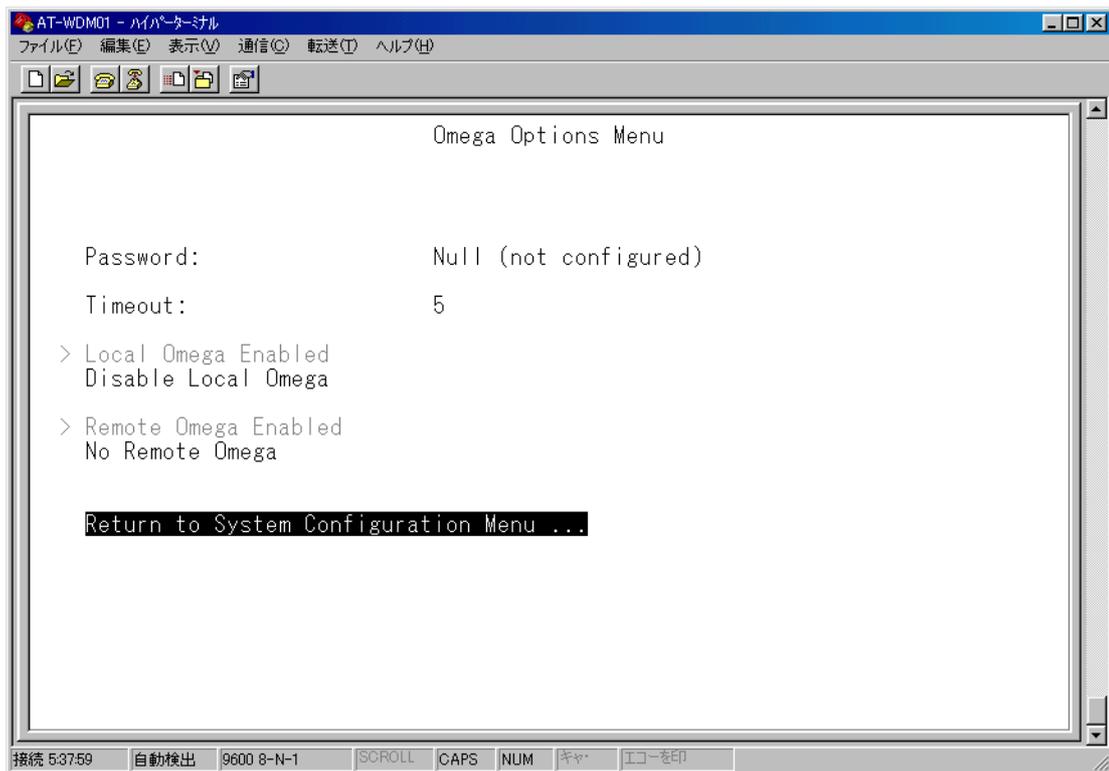
 日付、時刻はデフォルトの値が不定です。正しい日付、時刻を手動で設定してください。

## Omega Options メニュー

## Omega Options

Omega Options メニューは、内蔵ソフトウェア(Omega )へのアクセスを制御するためのセキュリティオプションを設定します。

[ Main Menu ]>[ System Configuration ]>[ Omega Options ]とすすみ、「Omega Options Menu 」画面を表示します。



各オプションを上から順に説明します。

## ログインパスワードの設定

## Password

ソフトウェアにアクセスする際のパスワードを設定します。デフォルトは「Null( not configured )」で、何も設定されていません。

パスワードを設定すると、メニューにアクセスしたときに「Password -> 」と表示されてパスワードを入力するように要求されます。

### ログインパスワードの設定

1. [ Main Menu ]->[ System Configuration ]->[ Omega Options ]とすすみ、「Omega Options Menu」画面を表示します。
2. Password の入力フィールドにカーソルを移動します。
3. **[Enter]**キーを押して「->」プロンプトを表示します。  
「->」プロンプトに続けて20文字までの半角英数字を入力し、**[Enter]**キーを押します。入力した文字は「\*」で表示されます。大文字・小文字を区別します。

### ログインパスワードの消去

1. [ Main Menu ]->[ System Configuration ]->[ Omega Options ]とすすみ、「Omega Options Menu」画面を表示します。
2. \*を入力して「\*」で表示されている既存のパスワードをハイライト表示します。
3. **[Enter]**キーを押して「->」プロンプトを表示します。
4. 「->」プロンプトに続けて、既存のパスワードの上から**[スペース]**を入力し、**[Enter]**キーを押します。

 セキュリティ保護のためパスワードは必ず設定してください。また、管理者はパスワードの管理・保護にご注意ください。

### タイムアウトの設定

#### Timeout

ソフトウェアセッションのタイムアウトを設定します。デフォルトは5(分)です。タイムアウトは、設定した時間内にキー入力がない場合、セッションを自動的に終了する機能です。

[ Quit ]オプションでセッションの終了を実行し忘れた場合に、そのマネージメントステーションからの不当なアクセスを制御することができます。また、Telnet セッションや、ソフトウェアダウンロードのブロックを避けるためにも有効です。

### タイムアウトの設定

1. [ Main Menu ]->[ System Configuration ]->[ Omega Options ]とすすみ、「Omega Options Menu」画面を表示します。
2. **[T]**を入力してTimeout の入力フィールドにカーソルを移動します。
3. **[Enter]**キーを押して「->」プロンプトを表示します。「->」プロンプトに続けて0 ~ 32767 (分)の半角数字を入力し、**[Enter]**キーを押します。  
「0」(ゼロ)に設定した場合は、この機能が無効となります。

 無効にした場合、[ Quit ]を選択してセッションを終了させないと、リモートからの接続や、ソフトウェアからのダウンロードができなくなります。

### アクセス制限設定

ソフトウェアへのアクセス制限を設定します。

#### アクセス制限の設定

1. [ Main Menu ]->[ System Configuration ]->[ Omega Options ]とすすみ、「Omega Options Menu」画面を表示します。
2. 「Omega Options Menu」の次2つのオプションを設定します。

---

#### Local Omega Enabled/Disable Local Omega

ローカル(RS-232 経由)でのアクセス制限を設定します。デフォルトはLocal Omega Enabled です。設定はセッションを終了した後に有効となります。

##### Local Omega Enabled

コンソールからローカル(RS-232 経由)でソフトウェアへアクセスすることができます。

##### Disable Local Omega

コンソールからローカル(RS-232 経由)でソフトウェアへアクセスすることができなくなります。設定を変更する場合は、リモート(Telnet 経由)からソフトウェアへアクセスしてください。

---

#### Remote Omega Enabled/No Remote Omega

リモート(Telnet 経由)からのアクセス制限を設定します。デフォルトはRemote Omega Enabled です。設定はセッションを終了した後に有効となります。

##### Remote Omega Enabled

リモート(Telnet 経由)からソフトウェアへアクセスすることができます。

##### No Remote Omega

リモート(Telnet 経由)からソフトウェアへアクセスすることができなくなります。

ただし、SNMP を使用してリモートからシステムを管理することは可能です。設定を変更する場合は、ローカル(RS-232 経由)からソフトウェアへアクセスしてください。

 Connect to a remote system メニュー、および Telnet アプリケーションを使用して、リモートシステムへ接続しているときに、No Remote Omega オプションを選択しないでください。

万一、このような操作を行った場合、Telnet アプリケーションを使用している場合はリモートシステムを、Connect to a remote system メニューを使用している場合は接続元とリモートシステムの両方をリセットしてください。

 Disable Local Omega と No Remote Omega の両方のオプションを選択して、セッションを終了すると、ソフトウェアに再度アクセスすることができなくなりますのでご注意ください。

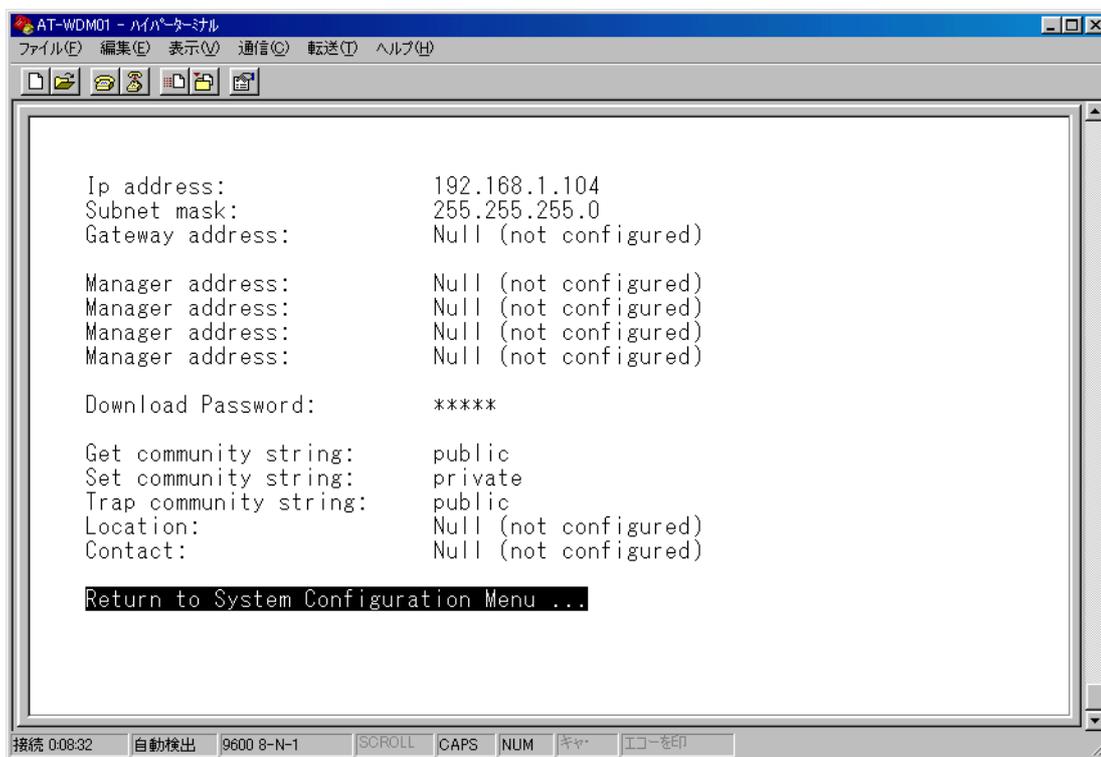
万一、Disable Local Omega と No Remote Omega の両方のオプションを選択してセッションを終了した場合は、システムを工場出荷時設定に戻して復旧します。この場合、設定内容はすべて消去されますのでご注意ください。

 4-9 ページ「工場出荷時設定にリセット」

## IP パラメーター

IP parameters

[ Main Menu ]->[ System configuration ]->[ IP parameters ]とすすみ、次の画面を表示します。



この画面では、SNMP や Telnet でシステムを管理するための IP パラメーターオプションが表示されます。SNMP や Telnet を使用する場合は、最低、IP アドレスとサブネットマスクの設定が必要となります。

## IP パラメーターの設定

1. 各オプションの頭文字を入力して、入力フィールドの「Null( not configured )」またはデフォルト設定の文字をハイライト表示します。
2. **[Enter]** キーを押して「->」プロンプトを表示します。  
 アドレスの場合は X.X.X.X の形式で、X が 0 ~ 255 までの半角数字を「->」プロンプトに続けて入力し、**[Enter]** キーを押します。  
 アドレスを「Null( not configured )」(何も設定されていません)に戻す場合は、0.0.0.0 を入力して、**[Enter]** キーを押します。  
 アドレス以外の場合は、各オプションの入力方法にしたがってください。

---

### Ip address

システムに割り当てる IP アドレスを入力します。

Connect to a remote system メニュー、および Telnet アプリケーションを使用して、リモートシステムへ接続しているときに、IP アドレスを変更しないでください。

万一、このような操作を行った場合、Telnet アプリケーションを使用している場合はリモートシステムを、Connect to a remote system メニューを使用している場合は接続もとリモートシステムの両方をリセットしてください。

---

### Subnet mask

サブネットマスクを入力します。

---

### Gateway address

ルーターを介して、他の IP ネットワークにパケットを送信する場合は、ゲートウェイアドレスを設定します。

---

### Manager address

Trap メッセージを受信する SNMP マネージャーの IP アドレスを入力します。

Trap は、選択したマネージャーだけに送信されます。Trap を受信できるマネージャーを 4 つまで設定することができます。

---

### Download Password

あるシステムからネットワーク上の他のシステムにソフトウェアのダウンロードを行う場合に要求されるパスワードを半角英数字で入力します。

デフォルトは ATS33 です。

入力できる文字数は 20 文字までで、大文字・小文字を区別します。

このパスワードは、ダウンロードの際にソフトウェアが自動的に検証するものです。システムに同じパスワードが設定されているかどうかを検証することによって、ダウンロードを許可します。

このパスワードを変更した場合は、他のシステムのパスワードも変更する必要があります。

ダウンロード方法については以下を参照ください。

 3-7 ページ「ソフトウェアのダウンロード(ネットワーク上のシステム)」

 3-9 ページ「ソフトウェアのダウンロード(ネットワーク上の全システム)」

---

### Get community string

Get に設定するコミュニティ名を入力します。

デフォルトはpublic です。

入力できる文字数は20 文字までで、大文字・小文字を区別します。

#### － SNMP community strings －

SNMPコミュニティ名は、MIBにアクセスすることを認証するためのパスワードとして使用される任意の文字列です。

SNMP(Version1)では、各リクエストにコミュニティ名を含めるように要求することで、セキュリティを確保します。

コミュニティ名をベースにしたアクセスレベルは、一般的にパブリックおよびプライベートの2つに分けられます。

SNMPパブリックコミュニティでは、MIBオブジェクトの読みとりのみ、SNMPプライベートコミュニティでは、MIBオブジェクトの読みとりと書き込みが可能です。

---

### Set community string

Set に設定するコミュニティ名を入力します。

デフォルトはprivate です。

入力できる文字数は20 文字までで、大文字・小文字を区別します。

---

### Trap community string

Trap に設定するコミュニティ名を入力します。

デフォルトはpublic です。

入力できる文字数は20 文字までで、大文字・小文字を区別します。

---

### Location

システムの物理的な場所を示す半角英数字を入力します。

入力できる文字数は64 文字までです。

ここで設定した内容は、MIB-IIの<SysLocation> に反映され、SNMP マネージャーでシステムの設置場所を確認することができます。

---

### Contact

システム管理者を特定するための情報を半角英数字で入力します。

入力できる文字数は64 文字までです。

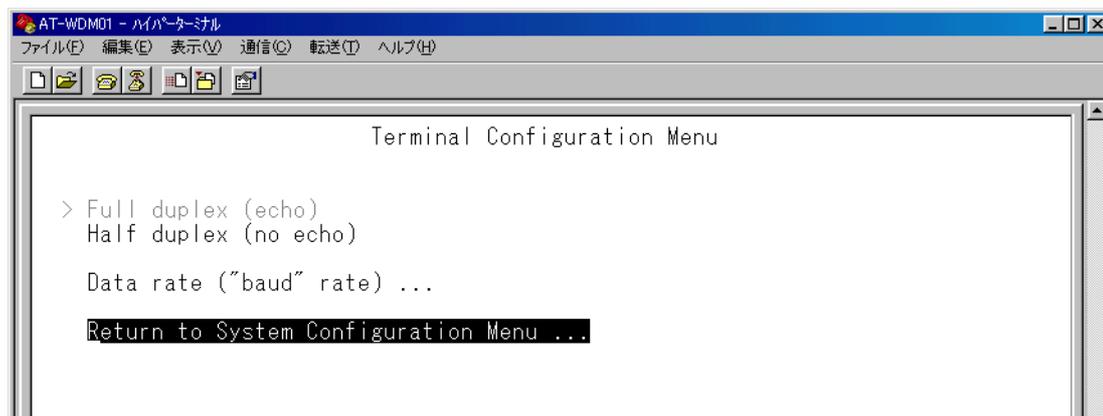
ここで設定した内容は、MIB-IIの<SysContact> に反映され、SNMP マネージャーで管理者の名前や電話番号を確認することができます。

## ターミナル設定

### Terminal configuration

接続するコンソール(ターミナル)に対応する設定を行います。

[ Main Menu ]->[ System configuration ]->[ Terminal configuration ]とすすみ、次の画面を表示します。



各オプションを上から順に説明します。

---

Full duplex( echo )/Half duplex( no echo )

キー入力のエコー表示を行うかどうか設定します。

デフォルトは「Full duplex ( echo )」です。

---

Data rate( "baud" rate ) . . .

このオプションを選択するとボーレート(ポートの通信速度)を設定する画面に移動します。

デフォルトは、「Automatic baud rate detection」で、自動的にボーレートを設定します。

固定設定の場合は、「9600 bps」に設定してください。

# 3

## マネージメントメニュー

# 4

## 付 録

---

この章では、ソフトウェアのバージョンアップ手順、トラブルシューティング、製品仕様について説明しています。

# 1 バージョンアップ手順

ソフトウェアのバージョンアップ方法は、XModemを使用する方法と、TFTPを使用する方法の2種類です。

XModemは、コンソールからローカル(RS-232経由)で、ソフトウェアにアクセスしている場合に、メニューを使用して簡単にダウンロードすることができます。TFTPはネットワーク上のシステムに短時間でファイル転送を行うことができます。

---

## 1 XModemを使用したアップグレード方法

コンソールからローカル(RS-232経由)で、ソフトウェアにアクセスしている場合、「XModem software update to this port」メニューオプションを使用して、新しいバージョンのソフトウェアを簡単にダウンロードすることができます。ここでは、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして、「ハイパーターミナル」を使用している場合のファイル転送方法を説明をします。

### 用意するもの

- ダウンロードするイメージファイル(WDM01J.bin)
- コンソール(Windows 95/98/2000、Windows NTが動作するPCまたはワークステーション)
- CentreCOM WD1004 本体 +AT-WDM01(本製品)
- RS-232 ストレートケーブル

### ダウンロード手順

1. コンソールのRS-232コネクタとAT-WDM01本体前面のターミナルポートをRS-232ストレートケーブルで接続します。

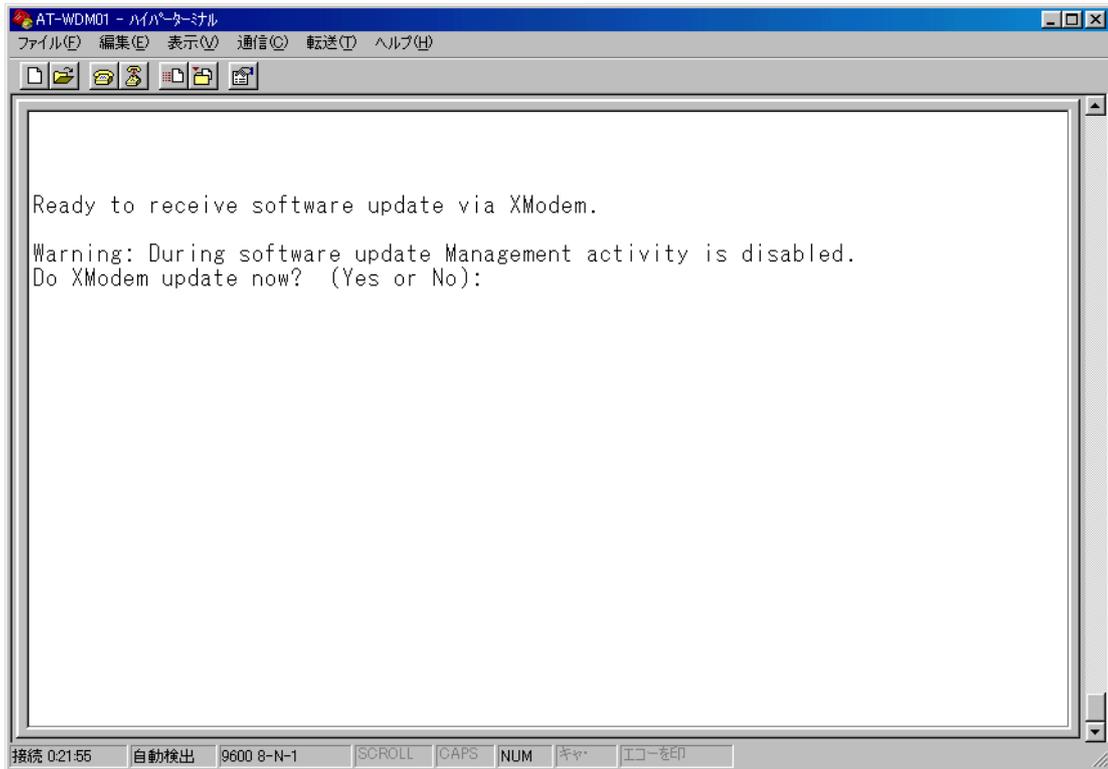
 1-7 ページ「ターミナルポートの接続」

2. コンソールおよびAT-WDM01(WD1004)の電源を入れます。
3. ハイパーターミナル(Hypertrm.exe)の設定を行います。「2 基本操作」を参考にしてください。

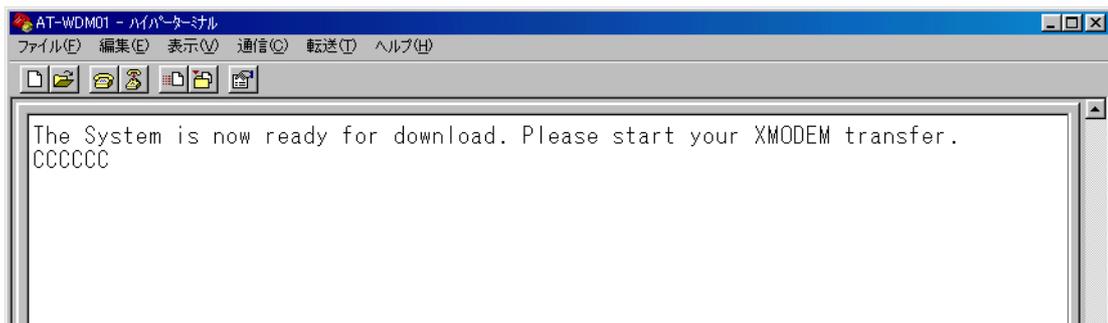
 2-6 ページ「ハイパーターミナルの設定手順」

4.  キーを1、2回押すとメインメニューが表示されます。

5. System administration メニューから XModem software update to this port  
メニューオプションを選択すると、次のような画面が表示されます。

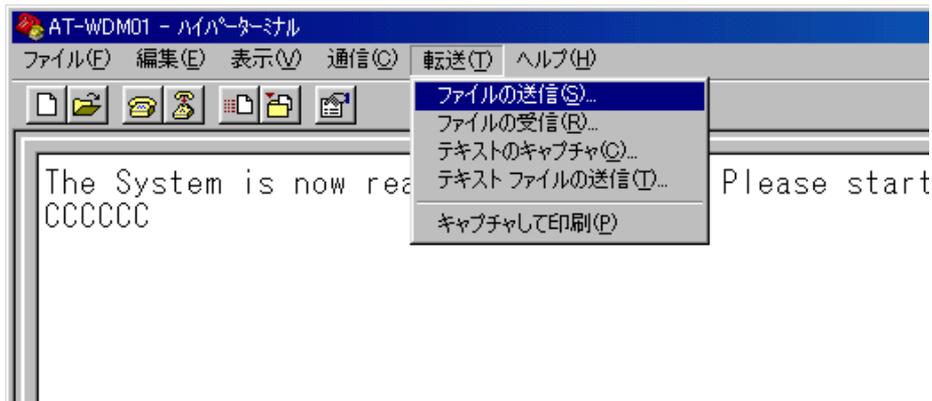


6. XModem によるダウンロードを行うかどうかの確認メッセージが表示されま  
す。  
実行する場合は  を入力してください。
7.  を入力すると、次のような画面が表示されて、ダウンロードソフトウェアが  
起動します。



# 1 バージョンアップ手順

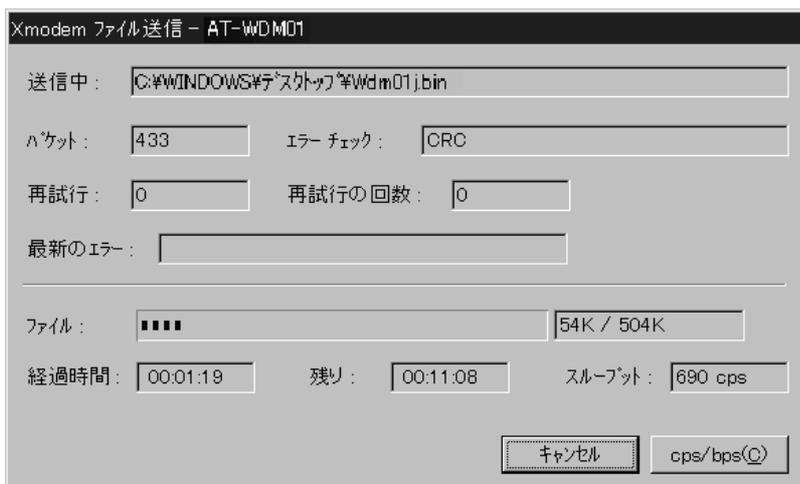
8. [ 転送 ] メニューから [ ファイルの送信 ] を選択します。



9. 「ファイルの送信」ウィンドウが表示されます。  
[ ファイル名 ] 欄にイメージファイル名を入力して、「プロトコル」欄はプルダウンメニューから「Xmodem」を選択します。  
最後に、[ 送信 ] ボタンをクリックします。



10. [ 送信 ] ボタンをクリックすると、次のような画面が表示されて、ファイル転送を開始します。



11. ファイル転送が正常に終了すると、AT-WDM01 は自動的にリセットします。セルフテストが終了して、画面上に「( press RETURN once or twice to enter Main Menu )」と表示されたら、**[Enter]**キーを 1、2 回押します。
12. メインメニューが表示されます。
13. 以上で、ダウンロード作業が終了しました。  
[Administration]メニューから[Diagnostics]メニューオプションを選択すると、ソフトウェアバージョンを確認することができます。

 3-16 ページ「システム診断」

 不具合が発生するなどしてダウンロードが失敗した場合は、本体前面のリセットボタンを押すか、電源ケーブルを接続しなおしてシステムをリセットします。リセットした後に、Extended diagnostics test( 拡張システム診断テスト ) が実行される場合があります。その場合は、**[B]**を入力して B: BOOT System Software オプションを選択して、再度リセットを行います。

# 1 バージョンアップ手順

## 2 TFTP を使用したアップグレード方法

TCP/IPネットワークのシステム間では、TFTPを使用するとソフトウェアを短時間でダウンロードすることができます。

ここでは、TFTPアプリケーションを使用して、ローカルホスト(PCまたはワークステーション)からリモートホスト(AT-WDM01)へイメージファイルをコピー(Put)する方法を説明します。

### 用意するもの

- ダウンロードするイメージファイル(AT-S33)
- TFTPアプリケーションが実行できるPCまたはワークステーション
- CentreCOM WD1004 本体 +AT-WDM01(本製品)

### ダウンロード手順

- ローカルホスト(PCまたはワークステーション)およびAT-WDM01に、IPアドレスが設定されていることを確認します。
- ローカルホストとAT-WDM01が、ネットワーク上で通信可能な状態にあることを確認します。
- ローカルホストのTFTPクライアントから「put」を実行します。

 このとき、フロッピーディスクドライブから直接ファイル転送を行うことはできません。必ずハードディスクから「put」を実行してください。

 TFTPアプリケーションのプラットフォームは、GUIを持ったものや、コマンド入力が必要なものなどさまざまです。TFTPアプリケーションの使用方法については、マニュアルなどをお読みください。

一般的なコマンドラインは次のようになります。

```
tftp <direction> <local_file> <host> <remote_file> <mode>
```

- <direction> 「put」を指定します。
- <local\_file> イメージファイル名を指定します。
- <host> リモートホスト(AT-WDM01)のIPアドレスを指定します。
- <remote\_file> AT-WDM01に設定されているダウンロードパスワード(Download Password)を指定します。  
ダウンロードパスワードのデフォルトは「ATS33」です。

 参照 3-25 ページ「IPパラメータ - Download Password」

<mode> バイナリ転送モード(octet、imageなど)を指定します。

4. ファイル転送が正常に終了すると、数秒後、AT-WDM01は自動的にリセットします。  
このとき、リセット(本体前面のリセットボタンを押す/電源ケーブルを抜く)を行わないください。
5. 本体がリセットされ、セルフテストの経過が画面に表示されます。  
画面上に「(press RETURN once or twice to enter Main Menu)」と表示されたら、**Enter**キーを1、2回押します。
6. メインメニューが表示されます。
7. 以上で、ダウンロード作業が終了しました。  
[Administration]メニューから[Diagnostics]メニューオプションを選択すると、ソフトウェアバージョンを確認することができます。

 3-16 ページ「システム診断」

## 2 デフォルト設定

OPT / GBICポート	
ステータス	Enabled
Omega Options	
パスワード	Null
タイムアウト	5 ( minutes )
ローカルアクセス	Enabled
リモートアクセス	Enabled
IPパラメーター	
IPアドレス	0.0.0.0
サブネットマスク	0.0.0.0
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0
Downloadパスワード	ATS33
システム名	Null
システムContact	Null
Get Community String	public
Set Community String	private
Trap Community String	public
ターミナル設定	
エコー表示	Full duplex ( echo )
ボーレート	Automatic

---

## 工場出荷時設定にリセット

設定内容を消去し、システムをデフォルト設定に戻します。

### 工場出荷時設定にリセットする。

- 1 電源ケーブルを接続しなおすか、本体前面のリセットボタンを押します。
- 2 「Hit any key to run diagnostics or to reload system software...」と表示されている間に、任意のキーを押して、拡張システム診断メニュー(ATI Diagnostics)を表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて、**[D]**を入力し、[D: Restore all configuration data to factory defaults]オプションを選択します。
- 4 「WARNING: ~」という確認のメッセージが表示されたら、**[Y]**を入力します。
- 5 「->」プロンプトに続けて、**[B]**を入力し、[B: BOOT System Software]オプションを選択します。
- 6 セルフテストが実行されて、その経過が画面に表示されます。最後に「( press RETURN once or twice to enter Main Menu )」と表示されたら、**[Enter]**キーを1、2回押します。
- 7 メインメニューが表示されます。



工場出荷時にリセット中、およびBoot中は、本体から電源ソケットを抜いたり電源プラグを電源コンセントから抜いたりしないでください。

# 3 トラブルシューティング

本製品を使用中になんらかのトラブルが発生したときの対処法について説明します。

## セルフテストについて

本製品は、セルフテスト機能(自己診断機能)を備えており、万が一異常が発生したときには、そのテスト結果を本体内蔵のソフトウェア「Administration」メニューの「Diagnostics」画面に表示し、異常の内容に応じて動作を制御します。

 3-16 ページ「システム診断」

### セルフテストの実行

セルフテストは次の場合に実行されます。

電源を投入したとき

本体前面のリセットボタンを押してリセットしたとき

本体内蔵のソフトウェアによってリセットしたとき

致命的なエラーによって自動的にリセットしたとき

### テスト項目

テスト結果に表示されるセルフテスト項目は次のとおりです。

テスト項目	結果	状態
Flash PROM	Good	Flash PROMに異常はありません。
	Failed	Flash PROMに異常があります。
RAM	Good	RAMに異常はありません。
	Failed	RAMに異常があります。
Serial Interface	Good	シリアルインターフェースに異常はありません。
	Failed	シリアルインターフェースに異常があります。
Power module A・B	Good	電源モジュールから電源が正常に供給されています。
	Failed	電源モジュールが装着されていないか、電源モジュールから電源が供給されていません。
Fan A・B	Good	電源モジュールのファンが正常に動作しています。
	Failed	電源モジュールが装着されていないか、ファンが動作していません。

## トラブルと思ったら

トラブルが発生したときは、まず発生したトラブルやLEDの状態を確認のうえ、該当の説明をお読みください。

### LED 表示の確認

本製品の状態を表示します。

LED	色	状態	表示内容
LNK	緑	点灯	10BASE-Tポートのリンクが確立しています。
		消灯	10BASE-Tポートのリンクが確立していません。
STATUS	緑	点灯	AT-WDM01本体、またはソフトウェアが正常に動作しています。
	橙	点灯	セルフテストを実行中です。
		点滅	ソフトウェアの起動中か、またはソフトウェアのダウンロード中です。
赤	点灯	AT-WDM01本体、およびソフトウェアに異常があります。	
POWER	緑	点灯	WD1004本体へ正常に接続され、AT-WDM01へ正常に電源が供給されています。
		消灯	WD1004本体または、AT-WDM01へ正常に電源が供給されていません。

### 電源を投入したが、POWER LED が点灯しない

電源ケーブルが、正しく接続されていますか。

電源ケーブルに断線等はありませんか。

指定された電源電圧を使用していますか。

AC100V、50/60Hzの電源電圧で使用する場合は、必ず、同梱の電源ケーブルを使用してください。

マネージメントモジュールがWD1004に正しく装着されていますか。

### ネットワークケーブルを接続してもLNK LED が点灯しない

接続先の機器に電源は投入されていますか。

接続先の機器に障害はありませんか。

## 3 トラブルシューティング

接続先の機器の通信モードは本製品と通信可能な組み合わせに設定されていますか。

10BASE-T ポートの通信モードは Half Duplex です。

 1-8 ページ「10BASE-T ポートの接続」

本製品のカスケード切り替えスイッチを確認してください。

ストレートケーブルを使用して本製品とリピーターやスイッチをカスケード接続する場合は、本製品の10BASE-Tポートと他のリピーターやスイッチの10BASE-T/100BASE-TXポートを接続してください。その際、カスケード切替スイッチは=HUBに設定してください。

正しいUTPケーブルを使用していますか。

10BASE-Tポートにはカテゴリ3以上のUTPケーブルを接続してください。

UTPケーブルの長さが制限を越えていませんか。

10BASE-Tの場合、ケーブル長は最大100mと規定されています。

以上の処置をしても正常に動作しないときは、アライドテレシスサポートセンターまでご連絡ください。

 5-2 ページ「サポートセンター連絡先」

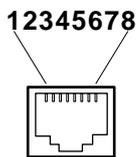
# 4 仕様

## コネクタ / ケーブル仕様

ここでは、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件や、コネクタのピンアサインなどを説明します。

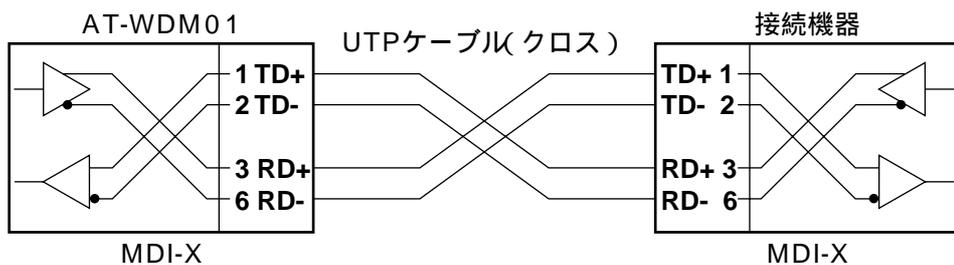
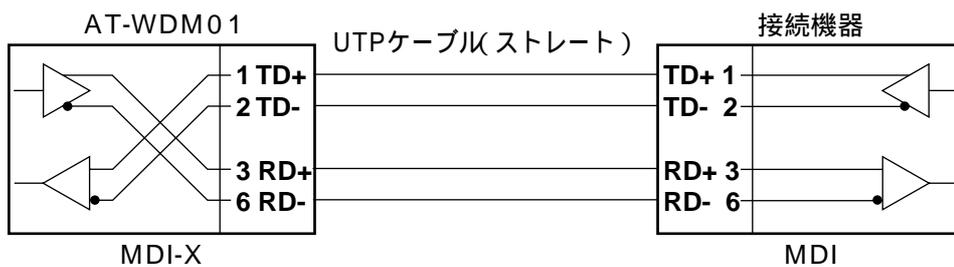
### 10BASE-T インターフェース

RJ-45 型のモジュージャックを使用しています。



コンタクト	MDI信号
1	TD+ (送信)
2	TD- (送信)
3	RD+ (受信)
4	未使用
5	未使用
6	RD- (受信)
7	未使用
8	未使用

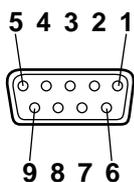
ケーブルの結線は下図のとおりです。



## 4 仕様

### RS-232 インターフェース

D-sub9 ピン(メス)タイプのコネクターを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	NOT USED	未使用
2	TXD (TD)	送信データ
3	RXD (RD)	受信データ
4	DSR (DR)	データセットレディ
5	SG (SG)	信号用接地
6	DTR (ER)	データ端末レディ
7	CTS (CS)	送信可
8	RTS (RS)	送信要求
9	NOT USED	未使用

## 本製品の仕様

サポート規格	
	IEEE 802.3 10BASE-T
電源部	
平均消費電力	3.6W (最大4.0W)
平均発熱量	3.1Kcal/h (最大 3.5Kcal/h)
環境条件	
保管時温度	-20 ~ 60
保管時湿度	20% ~ 90% (ただし、結露なきこと)
動作時温度	5 ~ 40
動作時湿度	20% ~ 80% (ただし、結露なきこと)
外形寸法	
	153.2 (W) x 277.6 (D) x 32.0 (H) mm
重量	
	320g
適用規格	
安全規格	UL1950, CSA C22.2 No.950-95
EMI規格	VCCIクラスA

# 4

## 付録

# 5

## 保証とユーザーサポート

---

この章では、本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書のご記入方法について説明します。

# 1 保証とユーザーサポート

## 保証

本製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みになり、「お客様インフォメーション登録カード」に必要事項をご記入の上、弊社「お客様インフォメーション登録係」までご返送ください。

「ユーザー登録カード」が返送されていない場合、保証期間内の無償での修理や、障害発生時のユーザーサポートなどが受けられません。

### 保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)については、弊社は、その責を一切負わないこととします。

## ユーザーサポート

ユーザーサポートを受けていただく際には、このマニュアルの調査依頼書を(拡大)コピーしたものに必要事項をご記入の上、下記サポート連絡先までFAXしてください。

記入内容などについては、「2 調査依頼書のご記入にあたって」を参照してください。

### サポート連絡先

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel: ☎ 0120-860-772

月～金曜日(祝・祭日を除く) 9:00～12:00 13:00～18:00

土曜日(祝・祭日を除く) 10:00～12:00 13:00～17:00

Fax: ☎ 0120-860-662

年中無休 24時間受付

## 2 調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、障害の原因をできるだけ早く見つけるためにご記入いただくものです。ご提供いただく情報が不十分な場合には、原因究明に時間がかかったり、最悪の場合には、問題が解決できないこともあります。

迅速に問題の解決を行うためにも、弊社担当者がお客様の環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。

記入用紙に書ききれない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。

なお、状況によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

### 使用しているハードウェアについて

製品名、シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)を調査依頼書に記入してください。

シリアル番号、リビジョンは、製品に同梱されている(本体底面に貼付されている)シリアル番号シールに記入されています。

(例)



ソフトウェアバージョンを記入してください。

ソフトウェアバージョンは、「Administration」メニューの「Diagnostics」にて表示されます。

### お問い合わせ内容について

どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に(再現できるように)記入してください。

エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

### ネットワーク構成について

ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。

他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

# 5

## 保証とユーザーサポート



